データ移行の手順

準 備

1　ご使用中の《ウィステリア》のバックアップを作成します．外付ハードディスクやメディア（DVD-R，CD-R 等）にバックアップ（フォルダごとコピー）します．

㊟ 同一ハードディスク内（ウィステリアを使用中のパソコン等）にバックアップしないでください．正しくリレーションされなくなる場合があります．

2a 使用中の《ウィステリア》を開き，メニューバーの表示→ステータスツールバーを選択して，ステータスツールバーを表示します．

全レコードを表示して，レコード数を控えます．

2b 「レイアウト：メニュー」をクリックして「画像日付」を選択します．全レコードを表示してレコード数を控えます．

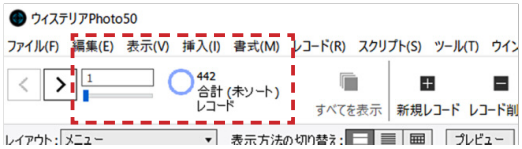
確認後，ファイルを閉じます．

㊟ ファイルは必ず閉じてください．ファイルが開いているとデータがすべてインポートされない場合があります．

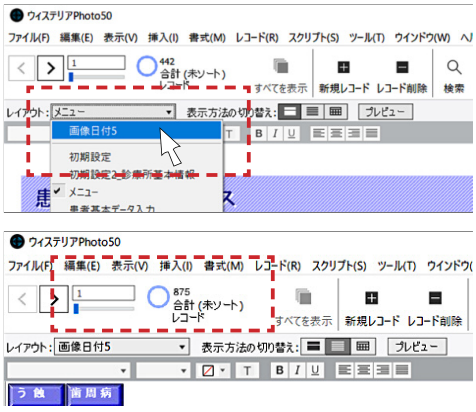
巻末の「データ移行 CheckList」をご利用ください．



検索されて一部のデータが表示されている．この状態でファイルが開いてると該当データのみインポートされます．



例）ウィステリア　すべてのレコードを表示し，レコード数を控える



例）画像日付５　すべてのレコードを表示し，レコード数を控える

3　データの移行時には「初期設定 1」画面のボタンを使用します．メニュー画面の［初期設定画面へ］ボタンをクリックして表示します．



データ移行時に使うボタン類（使用中のウィステリアのバージョンによって使うボタンは異なります）

4 ご使用中のウィステリアのバージョンによってデータの移行作業が異なります．該当する作業手順をご参照ください．

A **ウィステリア 5.x** （3 ページへ）
B **ウィステリア 4.0** （8 ページへ）
C **ウィステリア 3.1.1** （14 ページへ）
D **ウィステリア 3.0.2** （18 ページへ）
E **ウィステリア 3.1** （24 ページへ）
PerioAssistant2 をPerioAssistant6 にコンバートする（28 ページへ）
F **ウィステリア 3.0 から** （31 ページへ）
PerioAssistant2 をPerioAssistant6 にコンバートする（28 ページへ）
G **ウィステリア 2.2 以下** （32 ページへ）
H **ウィステリア Basic1.0** （36 ページへ）
I **試用版ウィステリア** （40 ページへ）
J **単独 CRASP_alone** （43 ページへ）
K PerioAssistant から teeth に歯式をインポートする（50 ページへ）

㊟ ご使用の環境設定によっては拡張子が表示されません．変換作業中は拡張子を表示してください．拡張子の表示方法はご使用のパソコンのヘルプ・マニュアルをご参照ください．

㊟ 旧バージョンのウィステリアにご自身でカスタマイズを加えていたものについては，インポートされません．

※ここではフォルダ名を《ウィステリア Pro X.x》と表記します．アポイント管理職をお使いの場合はフォルダ名を読み変えてください．

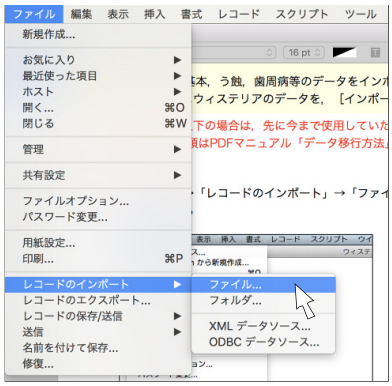
A　ウィステリア Pro5.x をインポートする

注 “ウィステリア Photo50.fmp12”のデータの移行は，基本，う蝕，歯周病などのデータのインポート「インポート A」と Photo2 で取り込んだ画像日付データのインポート「インポート B」を行う必要があります．

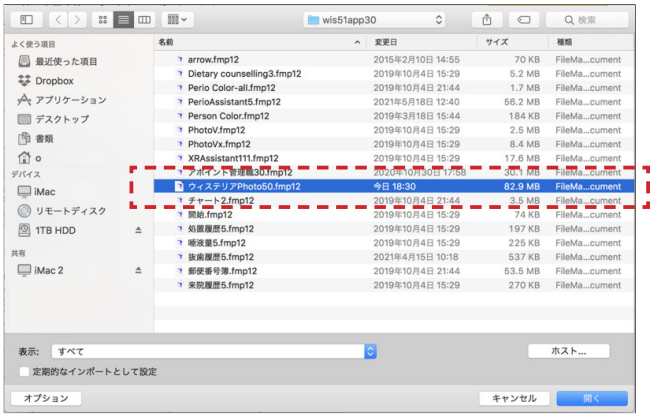
a-1　《ウィステリア 6.0》を立ち上げ，メニュー画面の［初期設定画面へ］ボタンをクリックして「初期設定 1」画面を開き，インポートA ボタンをクリックします．
インポートの方法が表示されますので，手順を確認します．
上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．



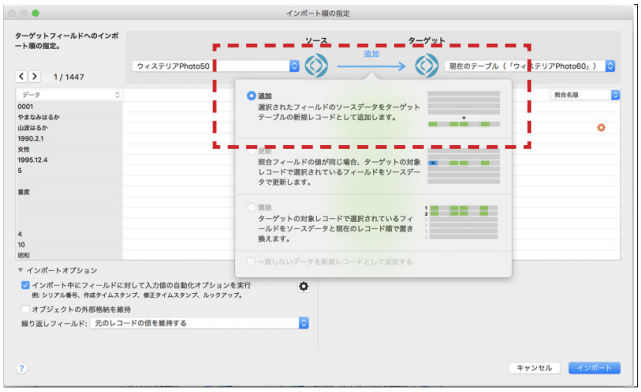
インポート A 画面



注 LAN でご使用の場合は「ホスト」をクリックし，“ウィステリア Photo50.fmp12”を開きます．



a-2　インポート順の設定が表示されます．
「追加」をチェックをします．

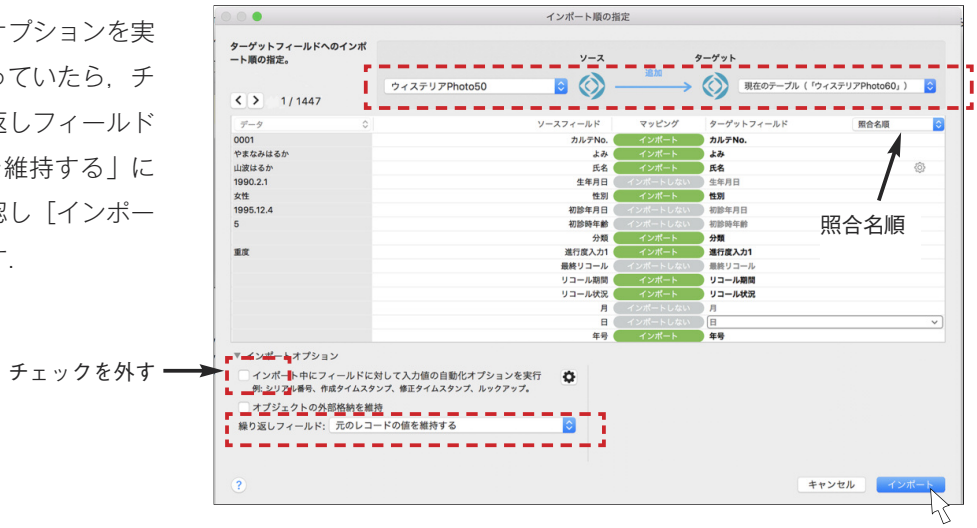


a-3　　ソース（インポート元）：**ウィステリア Photo50**

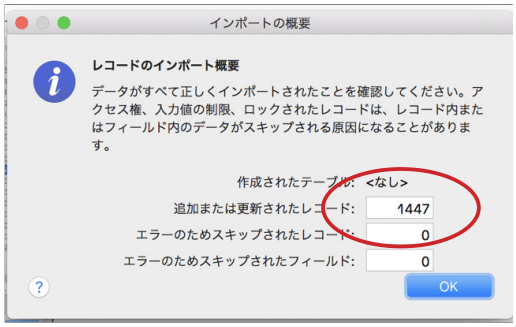
ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（ウィステリア Photo60）**

となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にします．

インポートオプション「インポート中、入力値の自動化オプションを実行」のチェックが入っていたら，チェックを外し，繰り返しフィールド「元のレコードの値を維持する」になっていることを確認し［インポート］をクリックします．



a-4　　インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．［OK］してウィステリアのインポートは終了です．



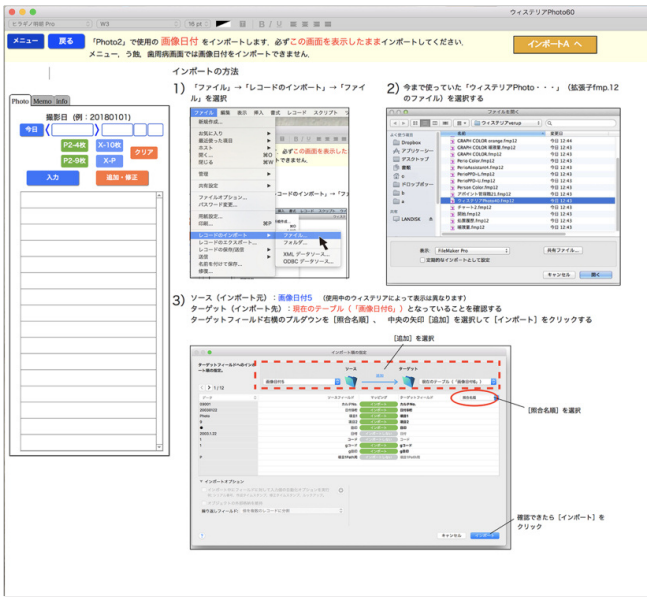
❗ 写真を使用していない場合は a-5～-7 の作業は不要です．

a-5　　**インポートB**　ボタンをクリックします．

ここではPhoto2 の画像日付をインポートします．

注 必ずこの画面を表示した状態でインポートしてください．メニュー，う蝕，歯周病画面等では画像日付をインポートできません．

ウィステリアの手順と同様に上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．ファイルを開くダイアログが表示されますので，使用中の《ウィステリアPro5x》 フォルダ内の“ウィステリアPhoto50.fmp12”を選択し，開きます．



インポート B 画面

a-6　フィールドデータのインポート順ダイアログが表示されます．

ソース（インポート元）：**画像日付 5**

ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（画像日付 6）**

となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にし，［インポート］をクリックします

インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．

［OK］して画像日付のインポートは終了です．

写真の取り込みをご使用になっていない場合および「Photo1」をご使用の場合はこの作業は不要です．



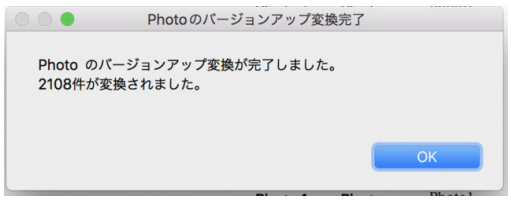
a-7　戻る　をクリックして初期設定 1 の画面に戻ります．

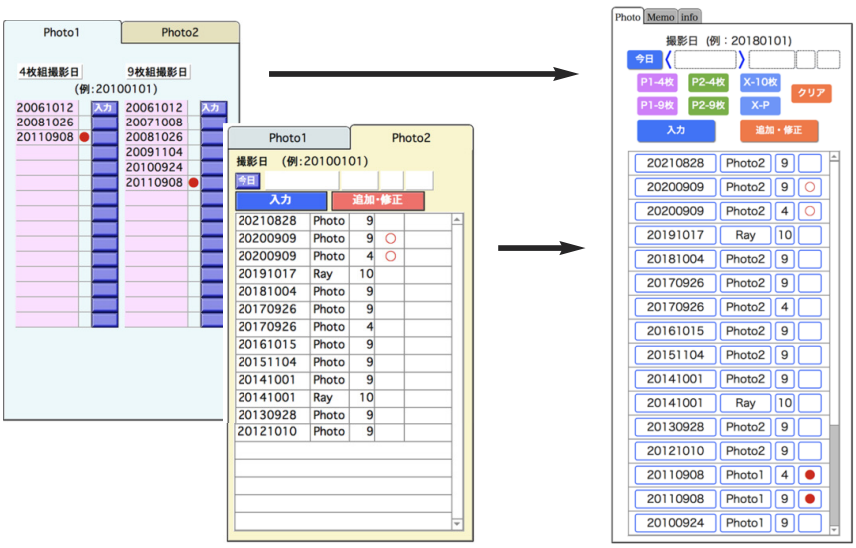
Photo バージョンアップ変換　ボタンをクリックして「Photo1」と「Photo2」が一元で管理できるように変換します．この作業は**最初に 1 度**行います．変換が終了すると，終了のダイアログが表示されます（件数は合算されます）．



注　「Photo2」のみを使用していた場合も作業は**必要**です．このボタンをクリックしないと，各画面にある Photo タブに日付が表示されません

ウィステリアで写真を使用していない場合は不要です．





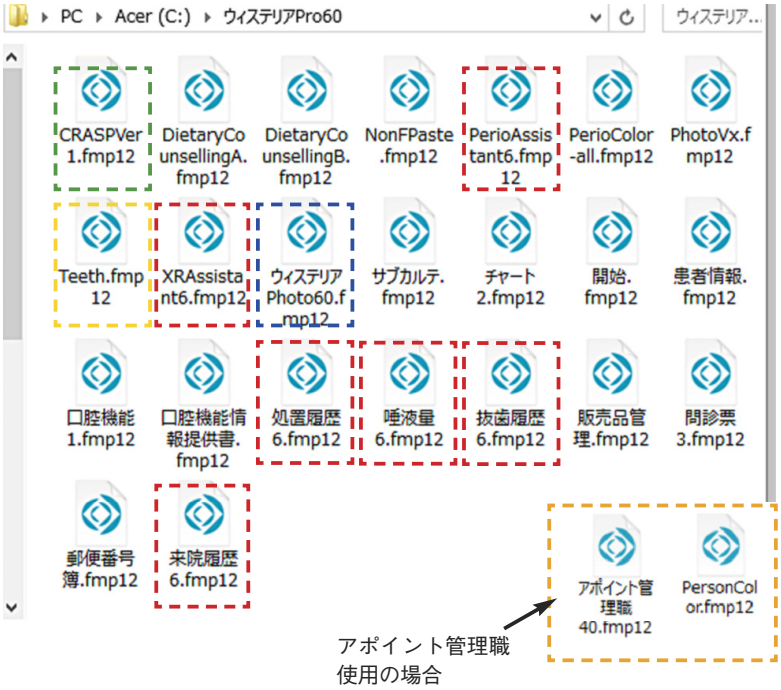
a-8-1 以下のファイルもそれぞれ開き，各ファイルを個別にインポートします．

インポートが必要なファイル（図中 ）

・**処置履歴 6**.fmp12
・**唾液量 6**.fmp12
・**抜歯履歴 6**.fmp12
・**来院履歴 6**.fmp12
・**XRAssistant6**.fmp12
・**PerioAssistant6**.fmp12
・**CRASPVer1**.fmp12（単独版使用がある場合（図中 ）
・**teeth**.fmp12（PerioAssistant5 で詳細データ入力をしている場合（図中 ）手順→50 ページへ

アポイント管理職ご使用の場合（図中 ）

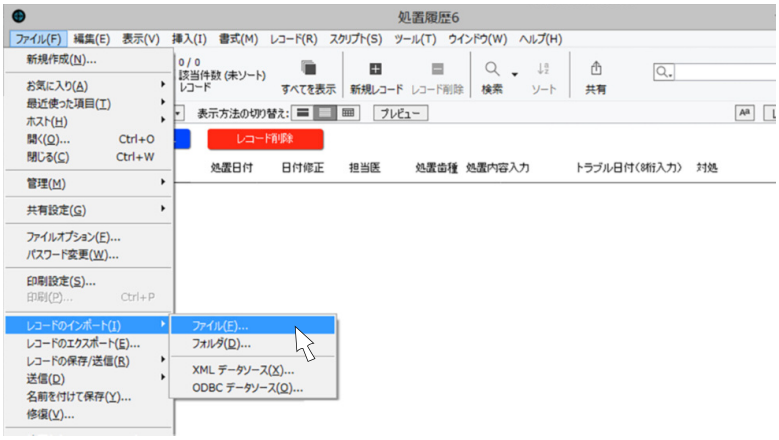
・**アポイント管理職 40**.fmp12
・**PersonColor**.fmp12（購入時にカスタマイズ済みの場合は不要）



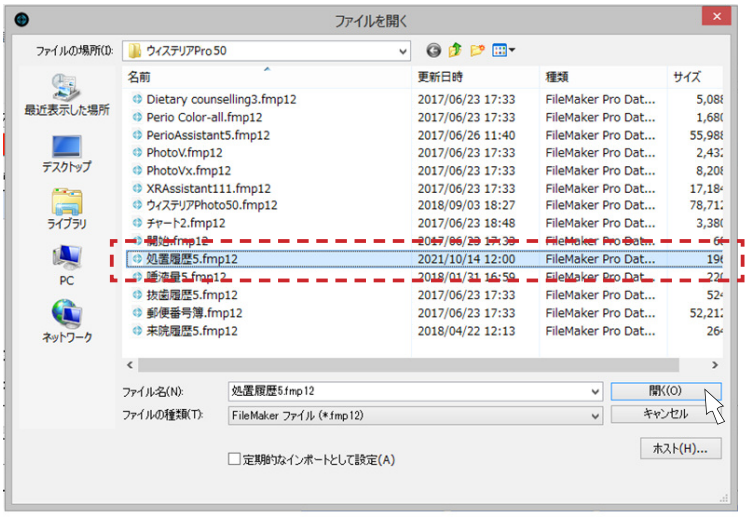
a-8-2 **処置履歴をインポートする**

処置履歴 6.fmp12 をダブルクリックして開きます．

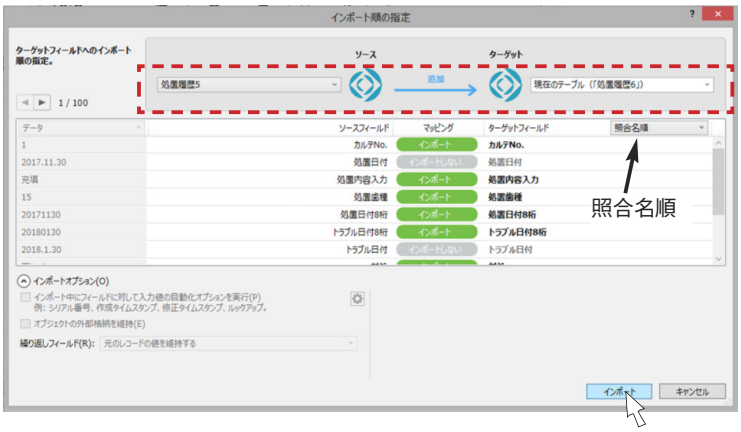
上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．



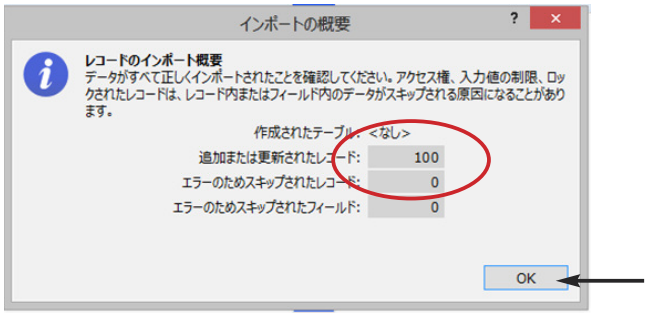
ファイルを開くダイアログが表示されますので，今まで使っていた《ウィステリアPro5.x》フォルダ内の“処置履歴 5.fmp12”を選択し，開きます．



a-8-3　インポート順の設定が表示されます．「追加」をチェックし，
ソース（インポート元）：**処置履歴 5**
ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（処置履歴 6）**
となっていることを確認します．配置順を「照合明順」にし，［インポート］をクリックします

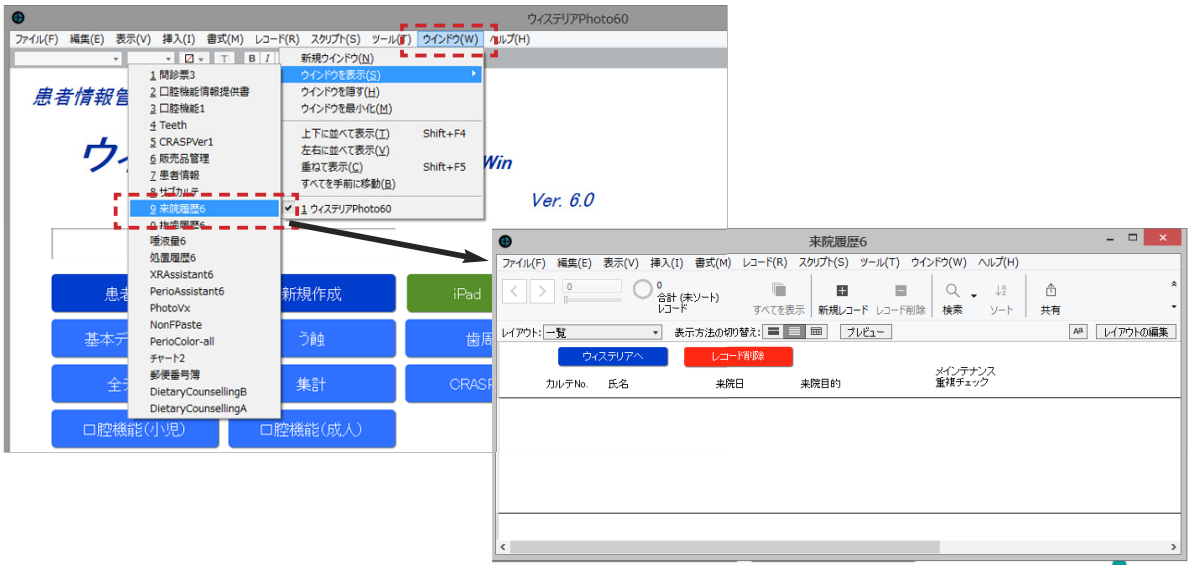


a-8-4　インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．［OK］して処置履歴 6 のインポートは終了です．



a-8-5　同様にa-8-1 で表示したほかのファイルも開きインポートします．

❗ 最初にウィステリアを開くときに「**開始.fmp12**」を使ってすべてのファイルを開いた場合は，上部メニューバー「ウインドウ」→「ウインドウを表示」からほかのファイルを表示できます．
開きたいファイル名をクリックするとそのファイルが表示されます．

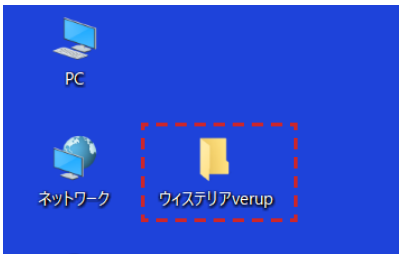


注 すべてのデータの移行が終わりましたら，**旧ウィステリアはパソコンから削除**してください．保管する場合は別のメディア等をご使用ください．

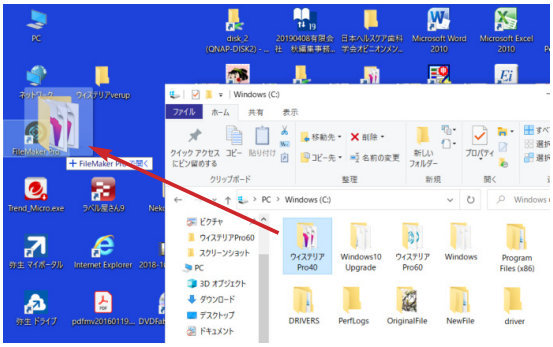
B　ウィステリア Pro4.0 をインポートする

ウィステリア Pro4.0 のデータを変換する

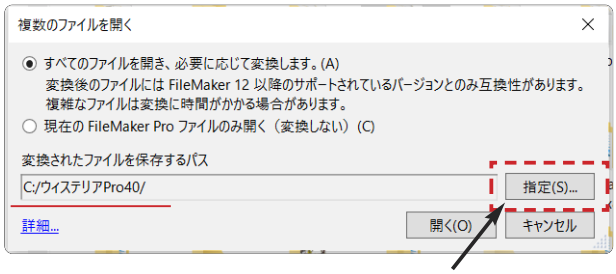
b-1　ご使用中の《ウィステリアPro40》(FileMaker Pro8.5-11・拡張子.fp7）を FileMaker Pro15-19 のファイル形式（拡張子.fmp12）に変換します．（※以下 FileMakerPro19 で説明します）
先に変換先のフォルダを作成します．ここでは，デスクトップに「ウィステリア verup」という名前で作成します．



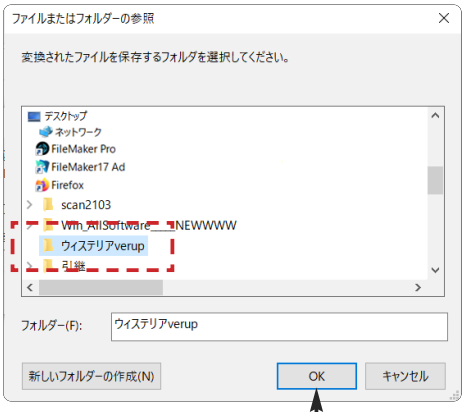
b-2　《ウィステリアPro40》をフォルダごとドラッグして FileMaker Pro19 のアイコンに重ねます．



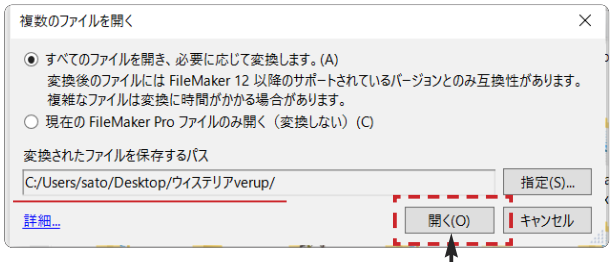
b-3　「複数のファイルを開く」ダイアログが表示されますので，［指定］をクリックし「フォルダの参照」から b-1 で作成したフォルダを指定します．
「開く」をクリックしてファイル変換を実行します．ファイル変換には数分の時間がかかります．変換終了後ファイルが開きますので，すべて閉じます．



ここをクリック



デスクトップに作成したフォルダを選択して［OK］



「変換されたファイルを保存するパス」が指定したフォルダになったことを確認して［開く］をクリック．

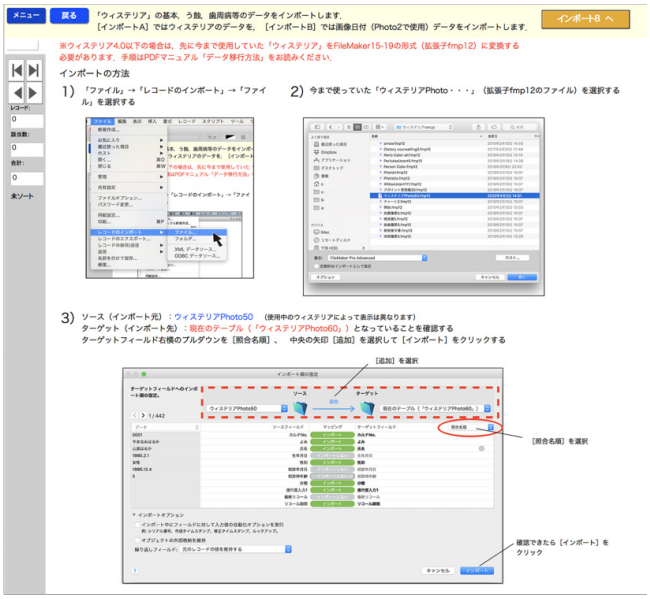
注　LAN 環境で使用の場合は，ホストのパソコンで作業してください．

ウィステリア Pro6.0 にデータをインポートする

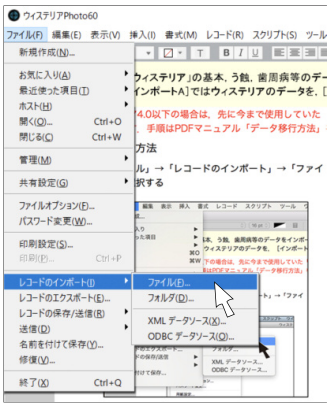
注 “ウィステリア Photo40.fmp12”のデータの移行は，基本，う蝕，歯周病などのデータのインポート「インポート A」と Photo2 で取り込んだ画像日付データのインポート「インポート B」を行う必要があります．

b-4 《ウィステリア 6.0》を立ち上げ，メニュー画面の［初期設定画面へ］ボタンをクリックして「初期設定 1」画面を開き，インポートA ボタンをクリックします．インポートの方法が表示されますので，手順を確認します．

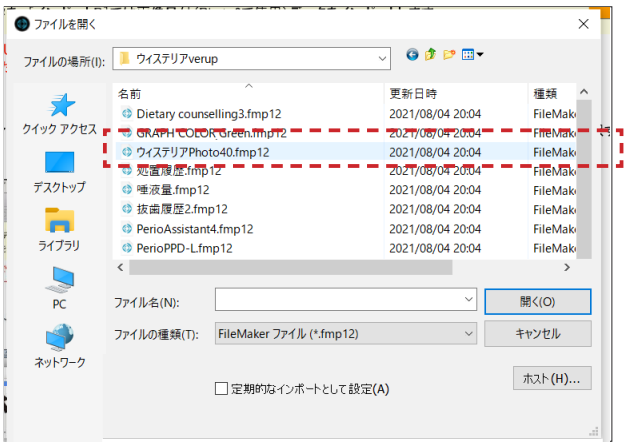
上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．



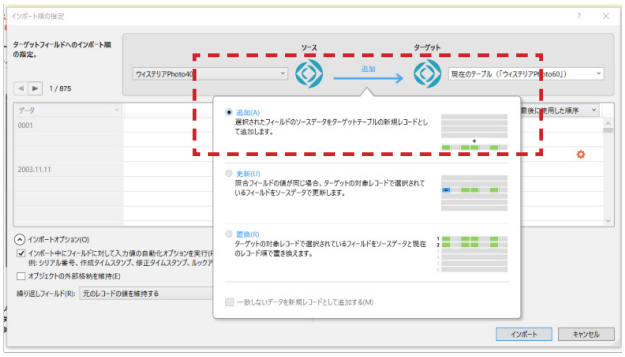
インポート A 画面



「ファイルを開く」ダイアログが表示されますので，b-3 で変換した「ウィステリア verup」フォルダ内の“ウィステリア Photo40.fmp12”を選択し，［開く］をクリック．



b-5 インポート順の設定が表示されます．「追加」をチェックします．



b-6　　ソース（インポート元）：**ウィステリア Photo40**

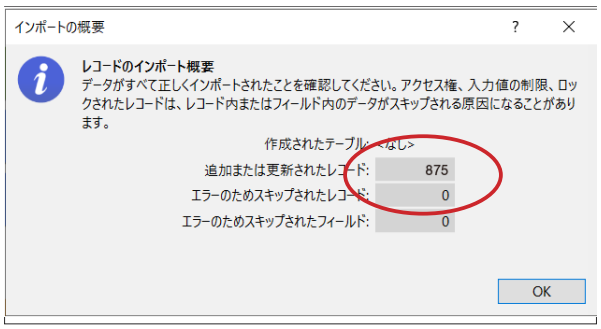
ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（ウィステリア Photo60）**

となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にします．

インポートオプション「インポート中、入力値の自動化オプションを実行」のチェックが入っていたら，チェックを外し，繰り返しフィールド「元のレコードの値を維持する」になっていることを確認し［インポート］をクリックします



b-7　インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．［OK］してウィステリアのインポートは終了です．



❗ 写真を使用していない場合は b-8～-10 の作業は不要です．

b-8　**インポートB**ボタンをクリックします．ここではPhoto2 の画像日付をインポートします．

注 必ずこの画面を表示した状態でインポートしてください．メニュー，う蝕，歯周病画面等では画像日付をインポートできません．

ウィステリアの手順と同様に「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．

「ファイルを開く」ダイアログが表示されますので，b-3 で変換した「ウィステリア verup」フォルダ内の“ウィステリアPhoto40.fmp12”を選択し，［開く］をクリック．



インポート B 画面

b-9　フィールドデータのインポート順ダイアログが表示されます．

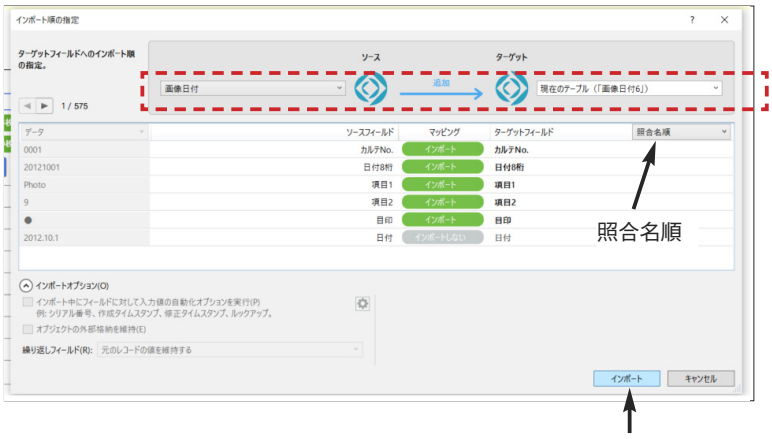
ソース（インポート元）：**画像日付**

ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（画像日付 6）**

となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にし，［インポート］をクリックします

インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認し，［OK］して画像日付のインポートは終了です．

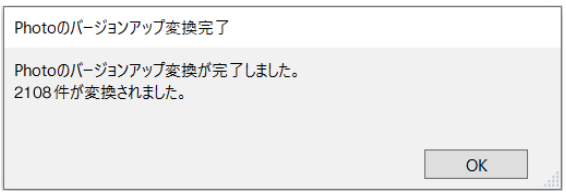
写真の取り込みをご使用になっていない場合および「Photo1」のみをご使用の場合はこの作業は不要です．



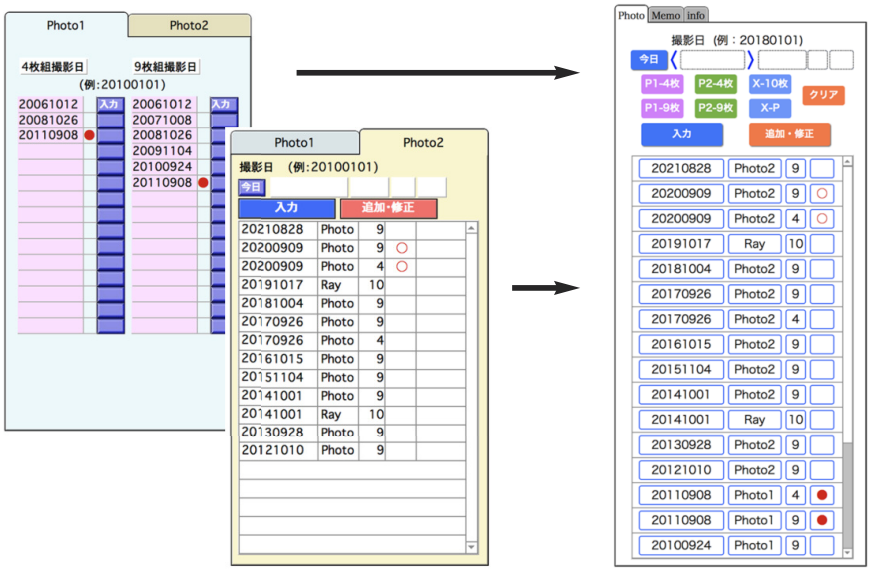
b-10　**戻る**　をクリックして初期設定 1 の画面に戻ります．

Photo バージョンアップ変換ボタンをクリックして「Photo1」と「Photo2」が一元で管理できるように変換します．この作業は**最初に 1 度**行います．変換が終了すると，終了のダイアログが表示されます（件数は合算されます）．





注　「Photo2」のみ使用していた場合も作業は**必要**です（写真を使用していなかった場合は不要）．

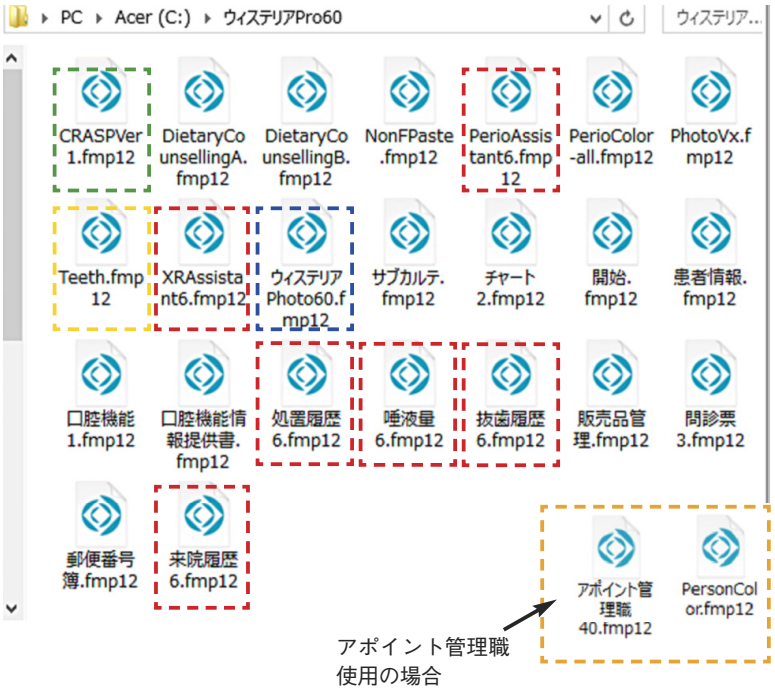


b-11-1以下のファイルもそれぞれ開き，各ファイルを個別にインポートします．

インポートが必要なファイル（図中 ）

・**処置履歴 6**.fmp12
・**唾液量 6**.fmp12
・**抜歯履歴 6**.fmp12
・**来院履歴 6**.fmp12
・**XRAssistant6**.fmp12
・**PerioAssistant6**.fmp12
・**CRASPVer1**.fmp12（単独版使用がある場合（図中 ）
・**teeth**.fmp12（PerioAssistant4 で詳細データ入力をしている場合（図中 ）手順→50 ページへ

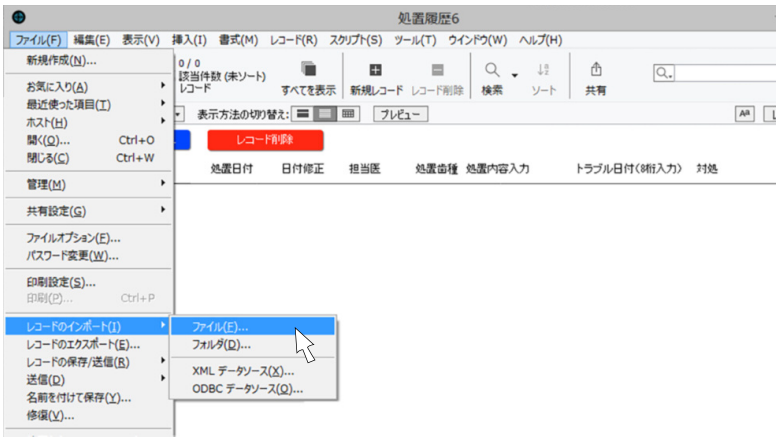
アポイント管理職ご使用の場合（図中 ）
・**アポイント管理職 40**.fmp12
・**PersonColor**.fmp12（購入時にカスタマイズ済みの場合は不要）



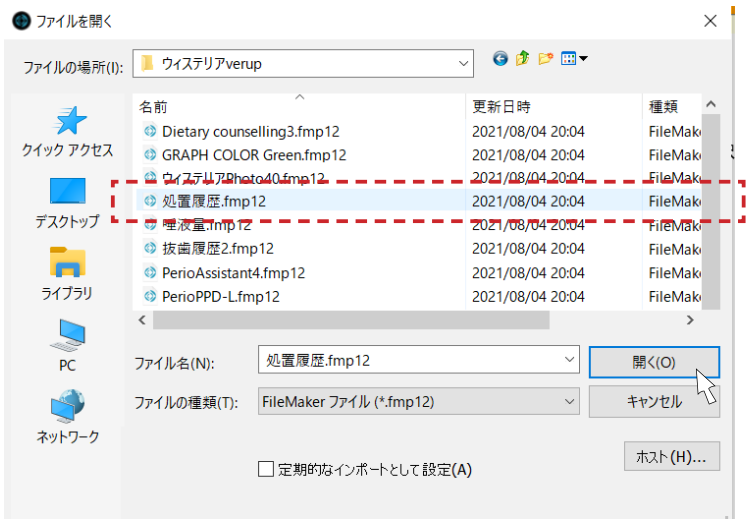
b-11-2 **処置履歴をインポートする**

処置履歴 6.fmp12 をダブルクリックして開きます．

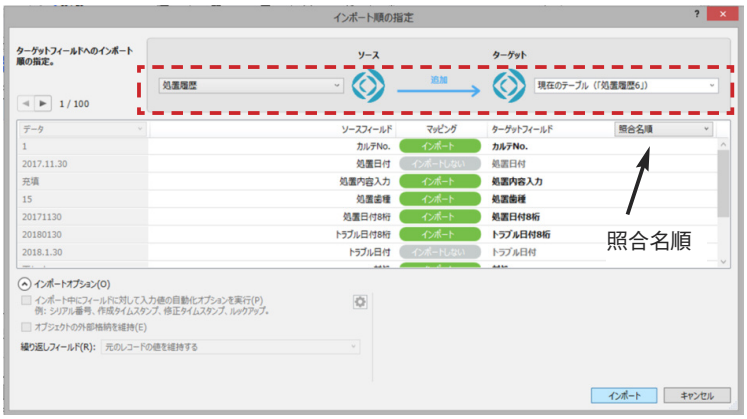
上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．



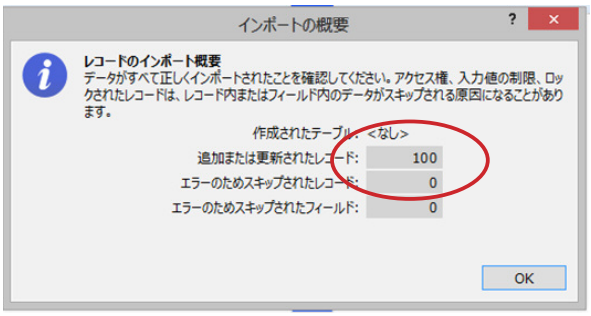
ファイルを開くダイアログが表示されますので，b-3 で変換した「ウィステリア verup」フォルダ内の“処置履歴.fmp12”を選択し，開きます．



b-11-3インポート順の設定が表示されます．「追加」をチェックし，
ソース（インポート元）：**処置履歴**
ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（処置履歴 6）**
となっていることを確認し，配置順を「照合明順」にし，［インポート］をクリックします．

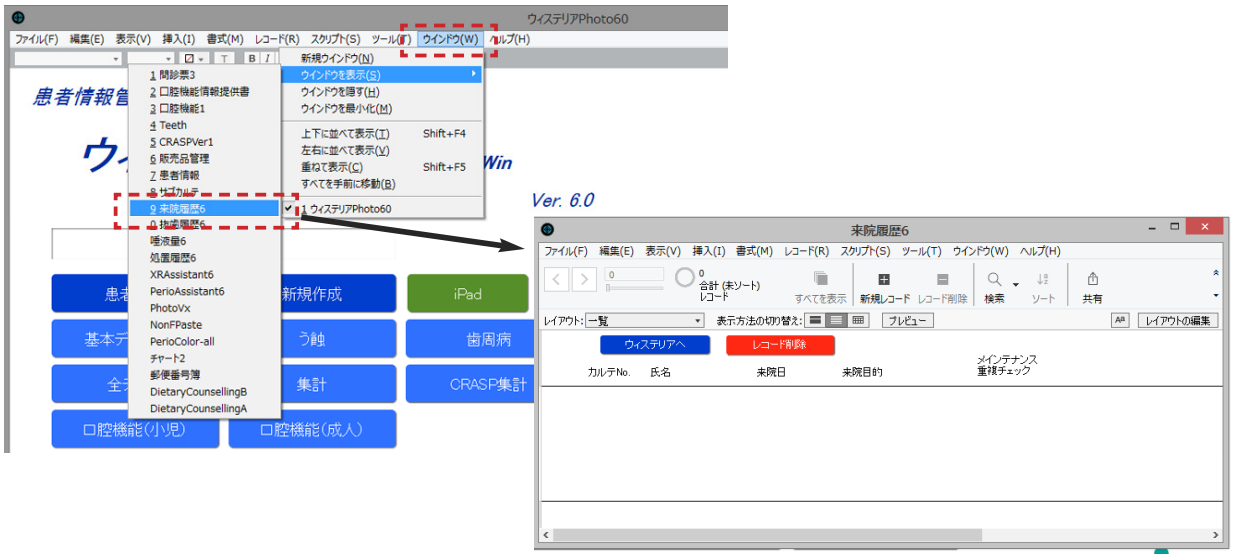


b-11-4 インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．［OK］して処置履歴 6 のインポートは終了です．



b-11-5 同様に b-11-1 で表示したほかのファイルも開きインポートします．

❗ 最初にウィステリアを開くときに「**開始.fmp12**」を使ってすべてのファイルを開いた場合は，上部メニューバー「ウインドウ」→「ウインドウを表示」からほかのファイルを表示できます．
開きたいファイル名をクリックするとそのファイルが表示されます．



注 すべてのデータの移行が終わりましたら，**旧ウィステリアはパソコンから削除**してください．保管する場合は別のメディア等をご使用ください

C　ウィステリア Pro3.1.1 をインポートする

ウィステリア Pro3.1.1 のデータを変換する

c-1　ご使用中の《ウィステリアPro3.1.1》(FileMaker Pro8.5-11・拡張子.fp7）を FileMaker Pro15-19 のファイル形式（拡張子.fmp12）に変換します．変換手順はウィステリア Pro4.0 の変換と同じです．

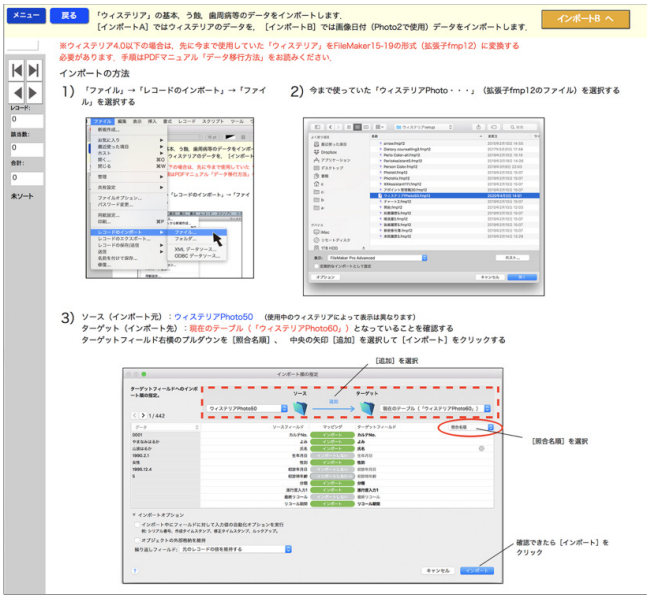
b-1～b-3（8 ページ）をご参照ください．

ウィステリア Pro6.0 にデータをインポートする

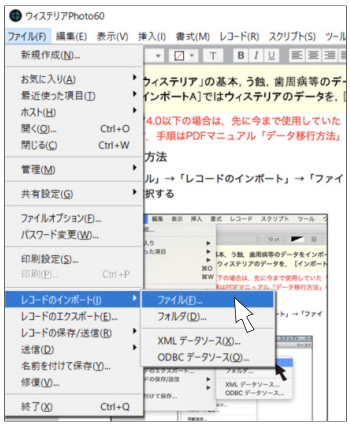
c-2　《ウィステリア 6.0》を立ち上げ，メニュー画面の［初期設定画面へ］ボタンをクリックして「初期設定 1」画面を開き，インポートA ボタンをクリックします．

インポートの方法が表示されますので，手順を確認します．

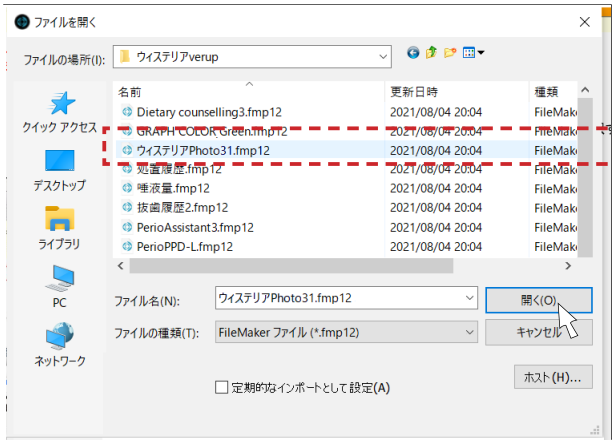
上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．



インポート A 画面

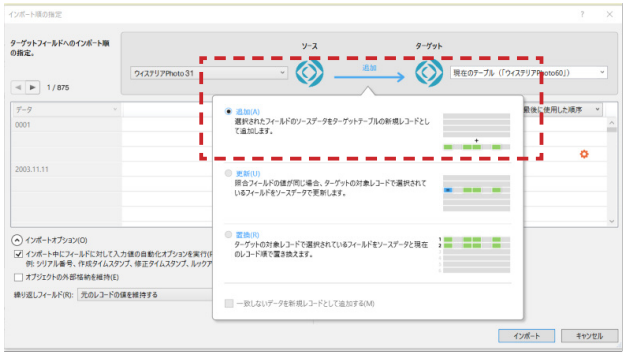


「ファイルを開く」ダイアログが表示されますので，b-3 で変換した「ウィステリア verup」フォルダ内の“ウィステリア Photo31.fmp12”を選択し，［開く］をクリック．



c-3　インポート順の設定が表示されます．

「追加」をチェックします．



c-4　ソース（インポート元）：**ウィステリア Photo31**

ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（ウィステリア Photo60）**

となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にします．

インポートオプション「インポート中、入力値の自動化オプションを実行」のチェックが入っていたら，チェックを外し，繰り返しフィールド「元のレコードの値を維持する」になっていることを確認し［インポート］をクリックします．

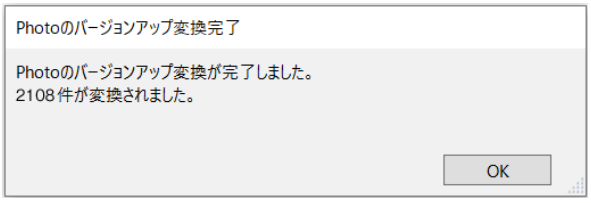


c-5　インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．［OK］してウィステリアのインポートは終了です．

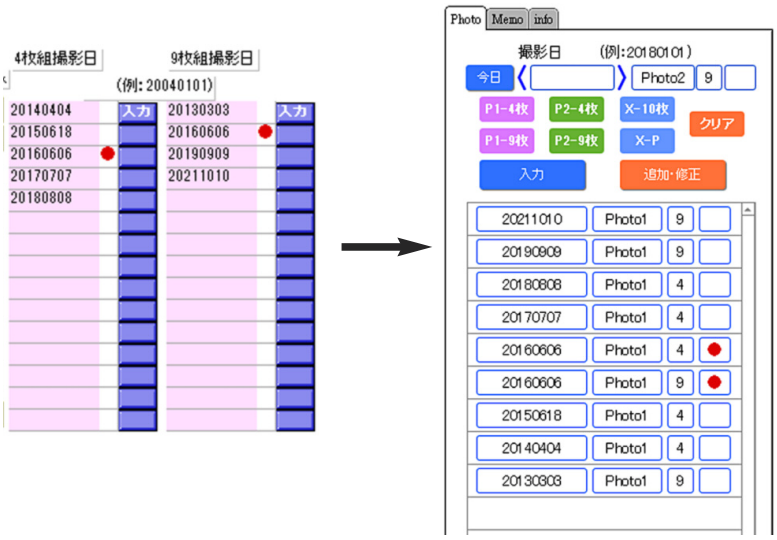
c-6　戻る　をクリックして初期設定 1 の画面に戻ります．

Photo バージョンアップ変換 ボタンをクリックします．4 枚写真，9 枚写真が件数制限なしで管理できるようになります．この作業は**最初に 1 度**行います．変換が終了すると，終了のダイアログが表示されます．





注　4 枚写真，9 枚写真の取込／表示を使用していた場合は**必ず**このボタンをクリックしてください（写真を使用していなかった場合は不要）．



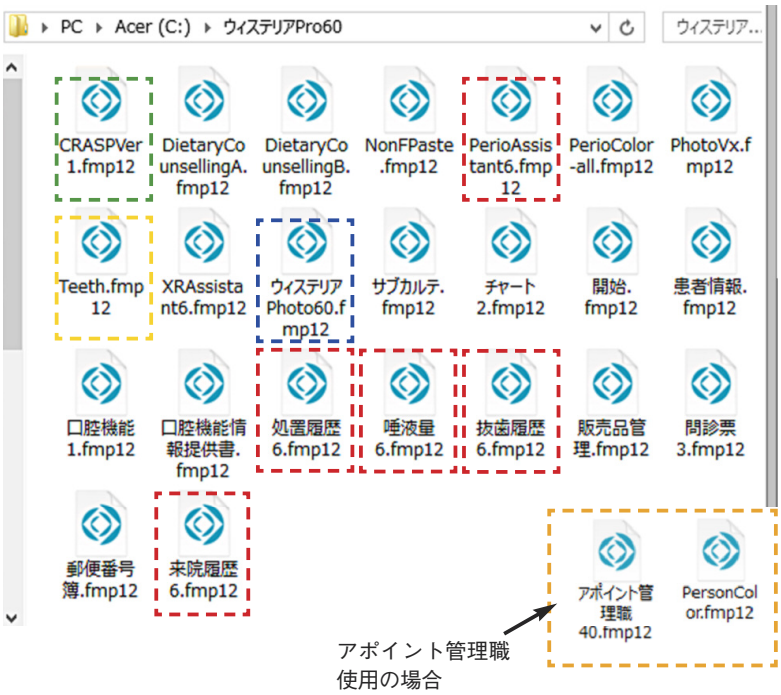
c-7-1　以下のファイルもそれぞれ開き，各ファイルを個別にインポートします．

インポートが必要なファイル（図中 ）

・**処置履歴 6**.fmp12
・**唾液量 6**.fmp12
・**抜歯履歴 6**.fmp12
・**来院履歴 6**.fmp12
・**PerioAssistant6**.fmp12
・**CRASPVer1**.fmp12（単独版使用がある場合（図中 ）
・**teeth**.fmp12（PerioAssistant3 で詳細データ入力をしている場合（図中 ）手順→50 ページへ

アポイント管理職ご使用の場合（図中 ）

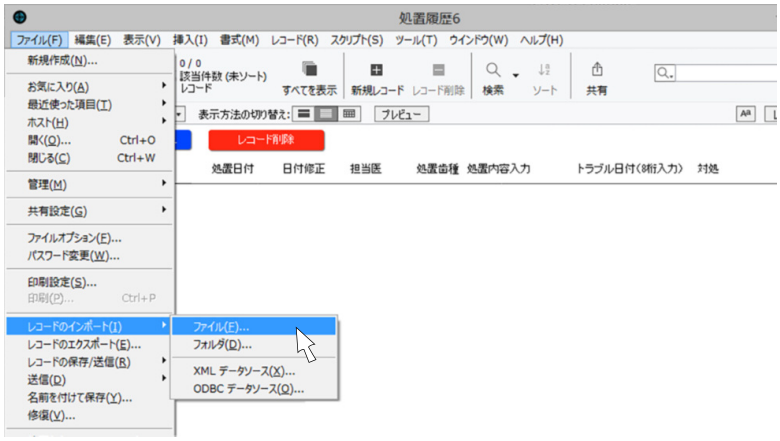
・**アポイント管理職 40**.fmp12
・**PersonColor**.fmp12（購入時にカスタマイズ済みの場合は不要）



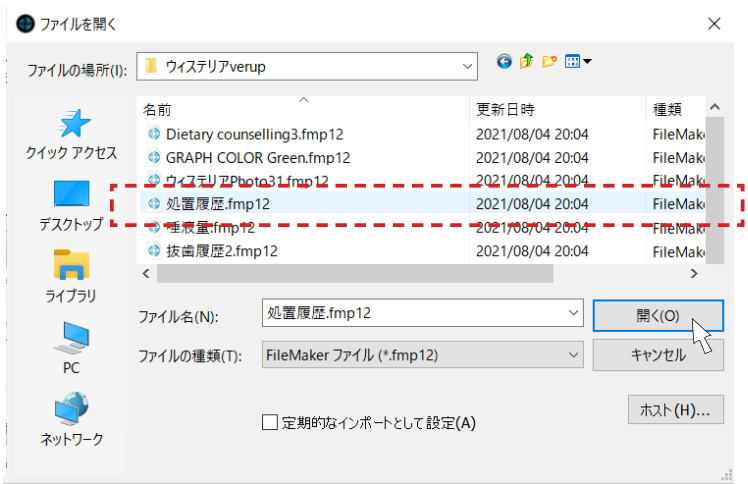
c-7-2　**処置履歴をインポートする**

処置履歴 6.fmp12 をダブルクリックして開きます．

上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．



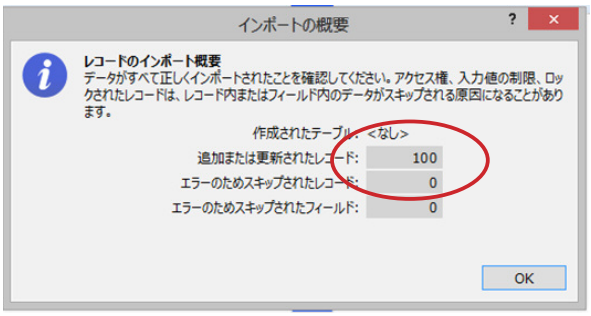
ファイルを開くダイアログが表示されますので，b-3 で変換した「ウィステリア verup」フォルダ内の“処置履歴.fmp12”を選択し，開きます．



c-7-3　インポート順の設定が表示されます．「追加」をチェックし，
　ソース（インポート元）：**処置履歴**
　ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（処置履歴 6）**
となっていることを確認します．配置順を「照合明順」にし，［インポート］をクリックします．

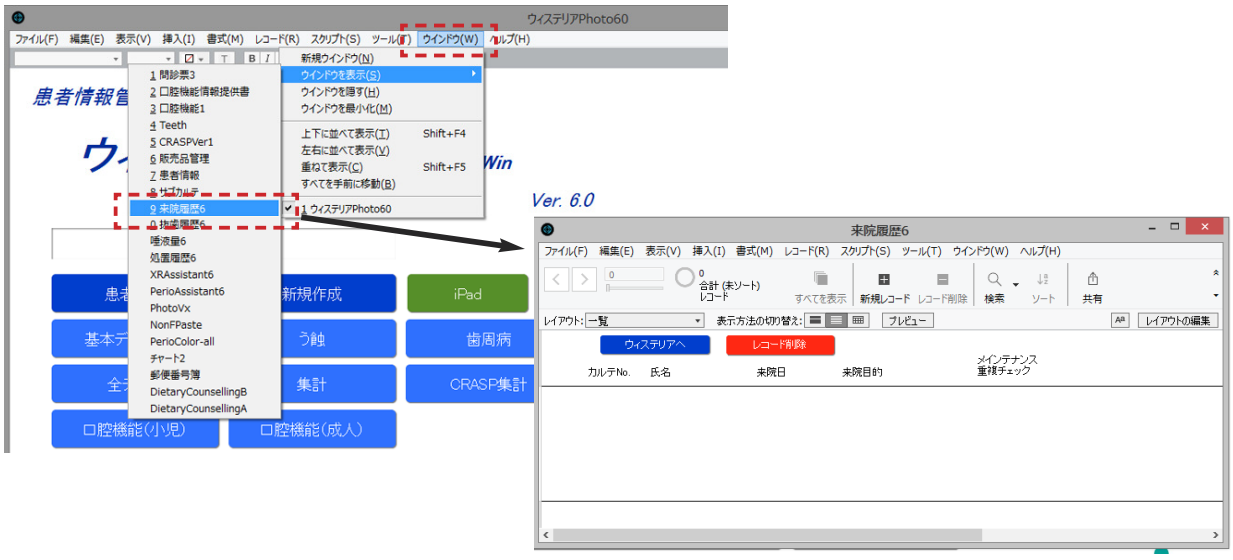


c-7-4　インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．［OK］して処置履歴 6 のインポートは終了です．



c-7-5　同様に c-7-1 で表示したほかのファイルも開きインポートします．

❗ 最初にウィステリアを開くときに「**開始.fmp12**」を使ってすべてのファイルを開いた場合は，上部メニューバー「ウインドウ」→「ウインドウを表示」からほかのファイルを表示できます．
開きたいファイル名をクリックするとそのファイルが表示されます．



注　すべてのデータの移行が終わりましたら，**旧ウィステリアはパソコンから削除**してください．保管する場合は別のメディア等をご使用ください．

D　ウィステリア Pro3.0.2 をインポートする　（変換は２段階必要）

※ファイルメーカーPro5-6 のファイル（拡張子; .fp5）は FileMaker Pro15-19 のファイル形式（拡張子; .fmp12）にする前に，FileMaker Pro8.5-11 の形式（拡張子; .fp7）にする必要があります．

※FileMaker Pro11 をお持ちでない場合は，Claris 社サイトより評価版をダウンロードできます．評価版は 30 日間使用できます．Claris 社ナレッジベース『FileMaker ファイルを「.fmp12」に変換』記事内から評価版をダウンロードしてください（https://support.claris.com/s/answerview?anum=000024703&language=ja）．

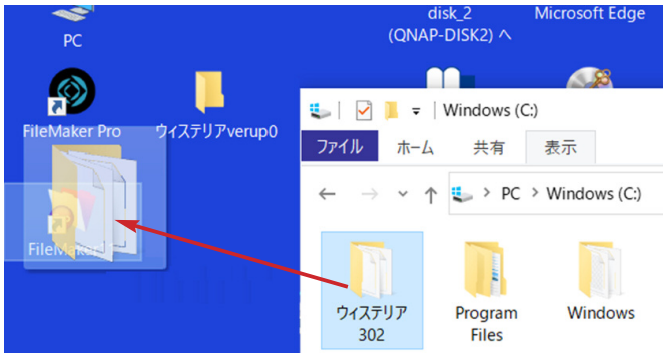
ウィステリア Pro3.0.2 のデータを変換する

d-1　まず，《ウィステリアPro3.0.2》(ファイルメーカー Pro5-6; .fp5）を FileMaker Pro11; .fp7）に変換します．
変換先のフォルダを先に作成します．ここでは「ウィステリア verup0」という名前で作成しています．

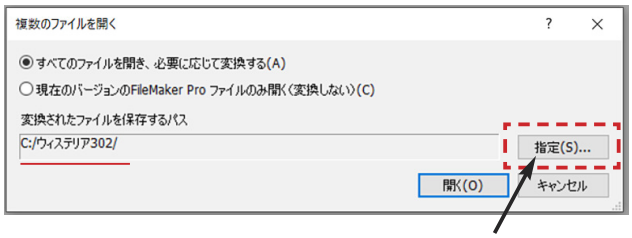


デスクトップに作成しておく

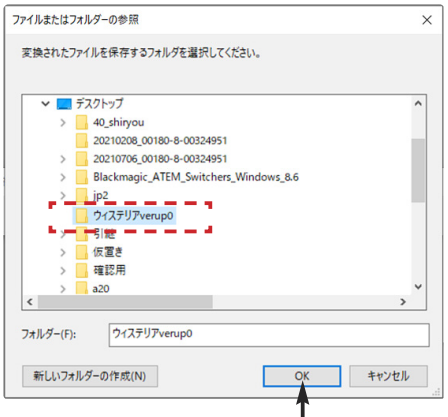
d-2　《ウィステリアPro302》をフォルダごと FileMaker Pro11 のアイコンに重ねます．



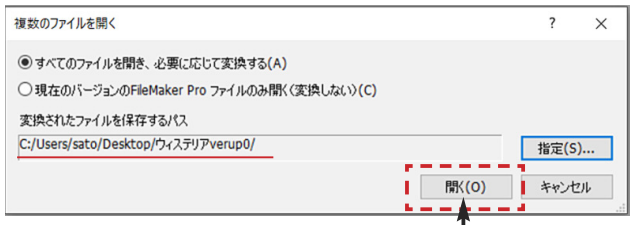
d-3　「複数のファイルを開く」ダイアログが表示されますので，［指定］をクリックし「フォルダの参照」から d-1 で作成したフォルダを指定します．



ここをクリック



デスクトップに作成したフォルダを選択して［OK］



「変換されたファイルを保存するパス」が指定したフォルダになったことを確認して［開く］をクリック．

「開く」をクリックしてファイル変換を実行します．ファイル変換には数分の時間がかかります．変換終了後ファイルが開きますので，すべて閉じます（FileMakerPro11 を終了します）．

d-4　次に，FileMaker Pro19 の形式に変換します．d-1 と同様に変換先のフォルダを作成します．ここでは，デスクトップに「ウィステリア verup」という名前で作成します．

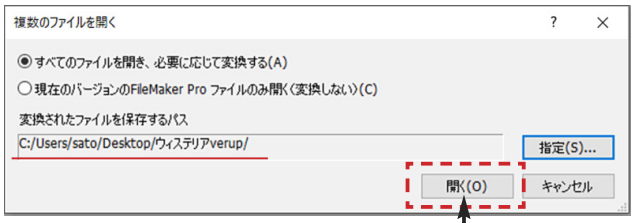
FileMakerPro11 に変換したフォルダをそのまま FileMakerPro19 アイコンにドラッグして重ねます．



d-5　d-3 で変換した「ウィステリア verup0」のフォルダを，FileMaker Pro19 のアイコンへドラッグして重ねます．複数ファイルを開くダイアログが表示されましたら，［指定］をクリックし，「フォルダの参照」から d-4 で作成した「ウィステリア verup」フォルダを指定します．

［開く］をクリックして，ファイル変換を実行します．

ファイル変換終了後ファイルが開きますので，すべて閉じます．



保存先が「ウィステリア verup」フォルダになったことを確認して［開く］をクリック．

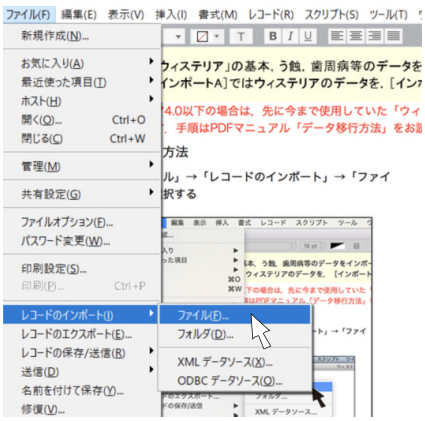
ウィステリア Pro6.0 にデータをインポートする

d-6　《ウィステリア 6.0》を立ち上げ，メニュー画面の［初期設定画面へ］ボタンをクリックして「初期設定 1」画面を開き．インポートA ボタンをクリックします．

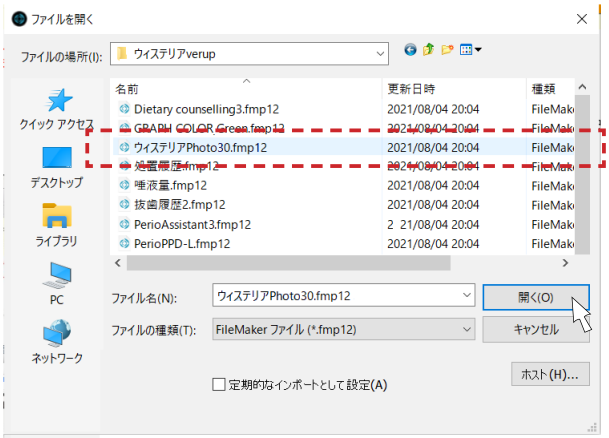
インポートの方法が表示されますので，手順を確認します．



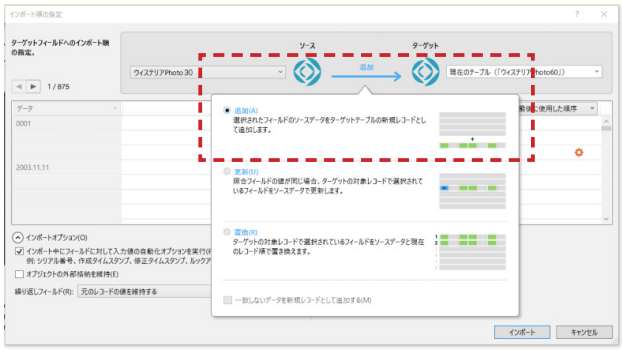
上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．



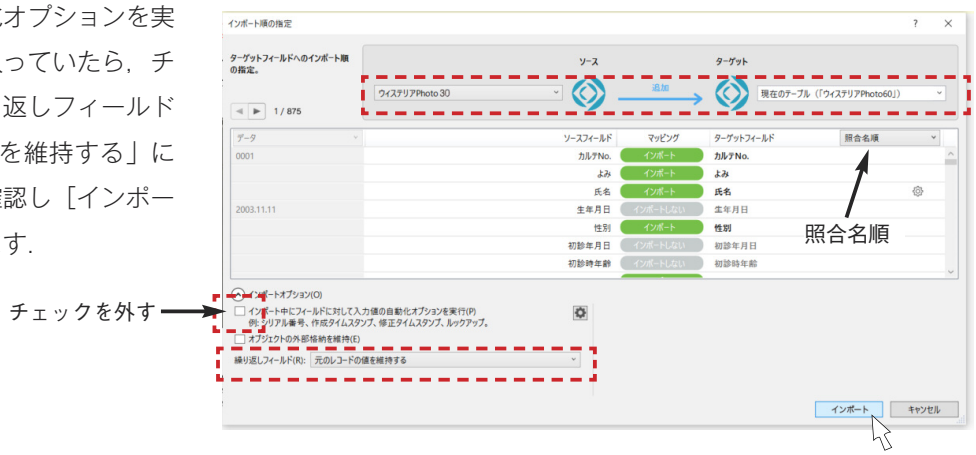
「ファイルを開く」ダイアログが表示されますので，d-5 で変換した「ウィステリア verup」フォルダ内の“ウィステリアPhoto30.fmp12”を選択し，開きます.



インポート順の設定が表示されます.
「追加」をチェックします.



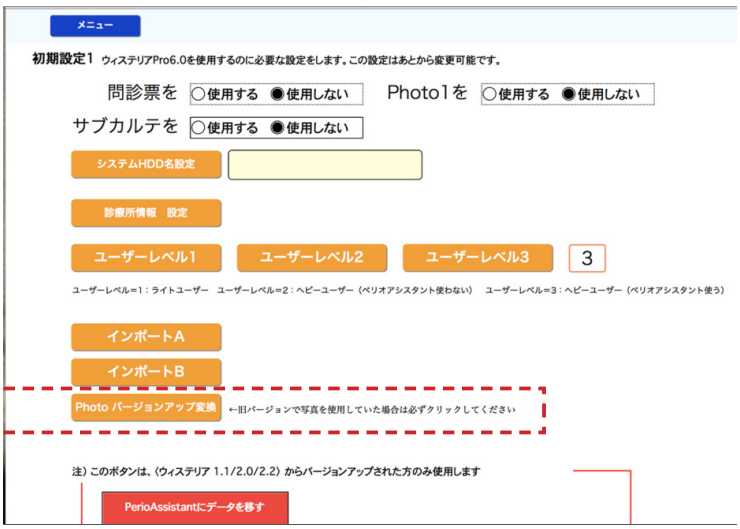
d-7　フィールドデータのインポート順ダイアログが表示されます.
　ソース（インポート元）：**ウィステリア Photo30**
　ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（ウィステリア Photo60）**
となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にします.
インポートオプション「インポート中、入力値の自動化オプションを実行」のチェックが入っていたら，チェックを外し，繰り返しフィールド「元のレコードの値を維持する」になっていることを確認し［インポート］をクリックします.



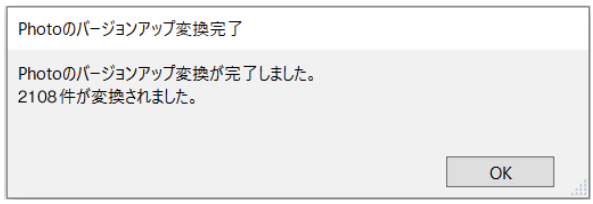
インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します.
［OK］してウィステリアのインポートは終了です.

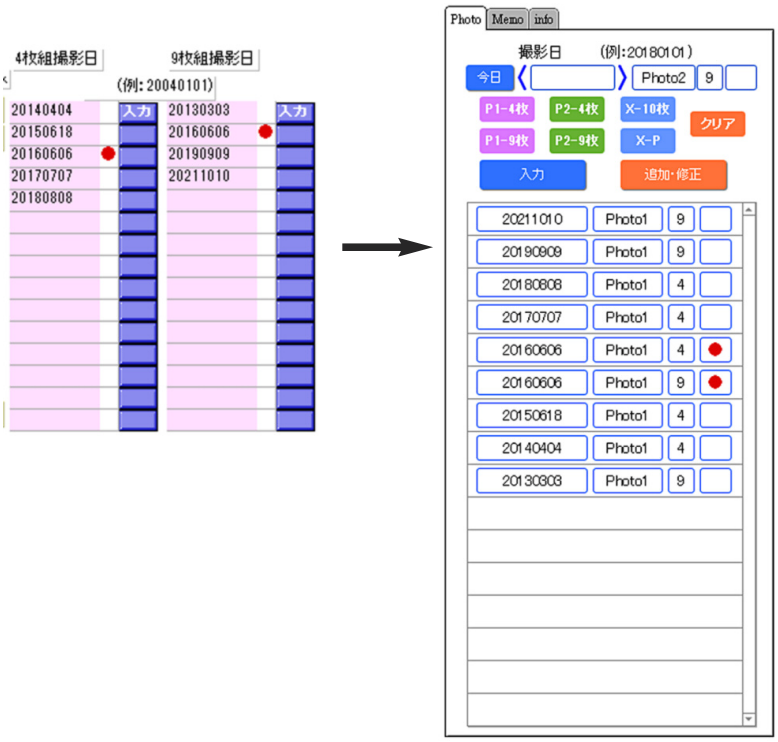
d-8 戻る をクリックして初期設定１の画面に戻ります．

Photo バージョンアップ変換 ボタンをクリックします．４枚写真，９枚写真が件数制限なしで管理できるようになります．この作業は**最初に１度**行います．変換が終了すると，終了のダイアログが表示されます．



注 ４枚写真，９枚写真の取込／表示を使用していた場合は必ずこのボタンをクリックしてください（写真を使用していなかった場合は不要）．





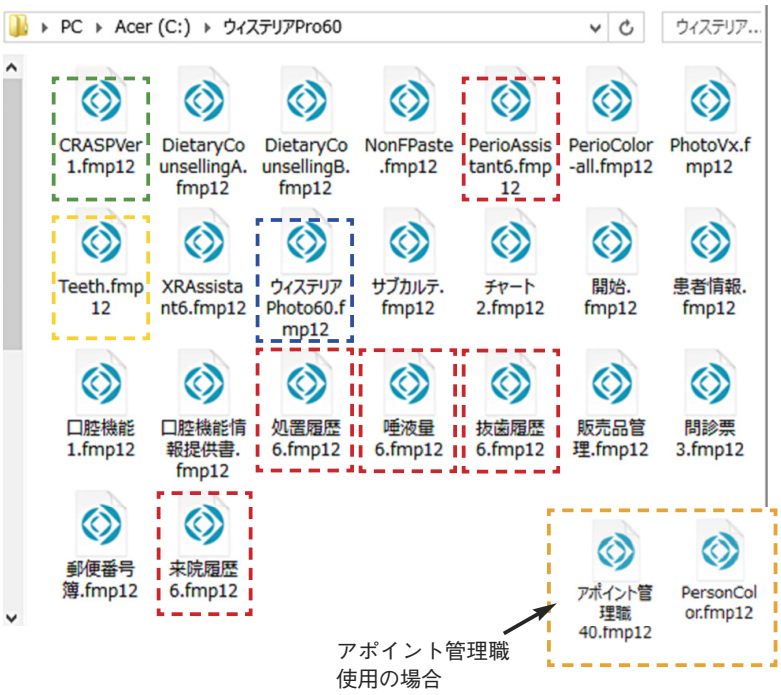
d-9-1　以下のファイルもそれぞれ開き，各ファイルを個別にインポートします．

インポートが必要なファイル（図中 ）

・**処置履歴 6**.fmp12
・**唾液量 6**.fmp12
・**抜歯履歴 6**.fmp12
・**来院履歴 6**.fmp12
・**PerioAssistant6**.fmp12
・**CRASPVer1**.fmp12（単独版使用がある場合（図中 ）
・**teeth**.fmp12（PerioAssistant3 で詳細データ入力をしている場合（図中 ）手順→50 ページへ

アポイント管理職ご使用の場合（図中 ）

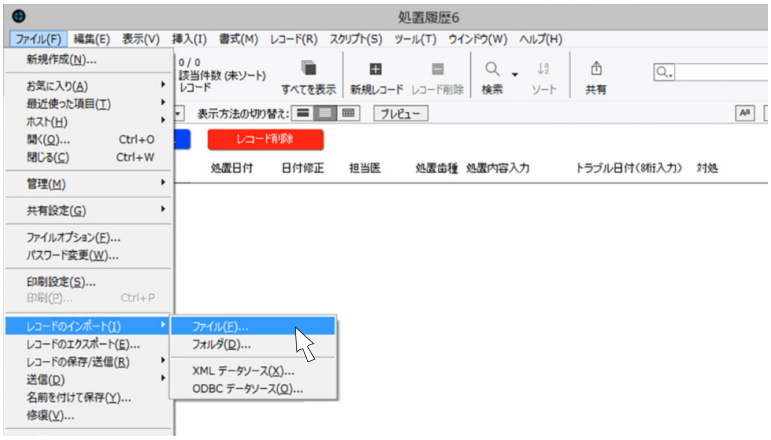
・**アポイント管理職 40**.fmp12
・**PersonColor**.fmp12（購入時にカスタマイズ済みの場合は不要）



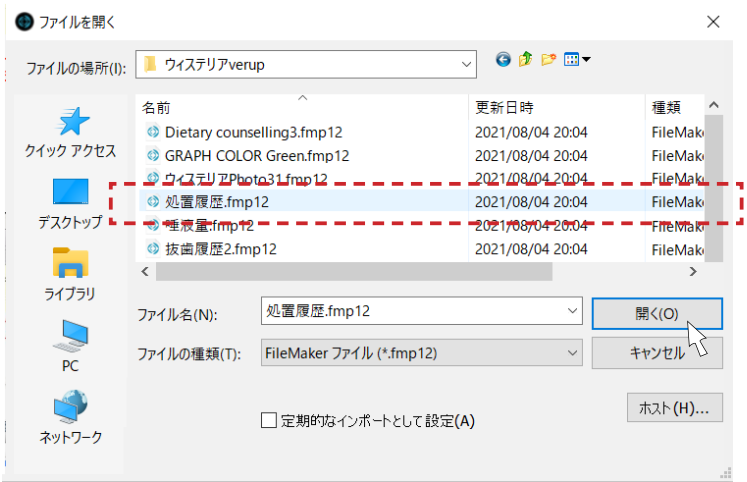
d-9-2　**処置履歴をインポートする**

処置履歴 6.fmp12 をダブルクリックして開きます．

上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．



ファイルを開くダイアログが表示されますので，d-5 で変換した「ウィステリア verup」フォルダ内の“処置履歴.fmp12”を選択し，開きます．



d-9-3 インポート順の設定が表示されます．「追加」をチェックし，

ソース（インポート元）：**処置履歴**

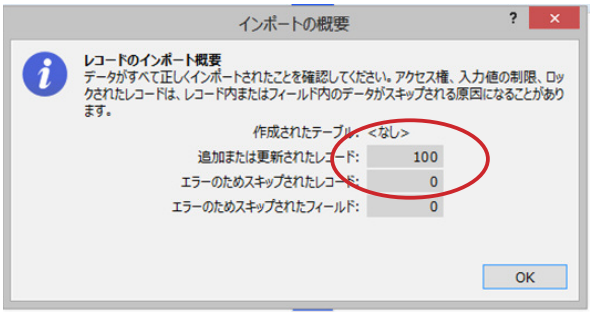
ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（処置履歴 6）**

となっていることを確認します．

配置順を「照合明順」にし，［インポート］をクリックします．

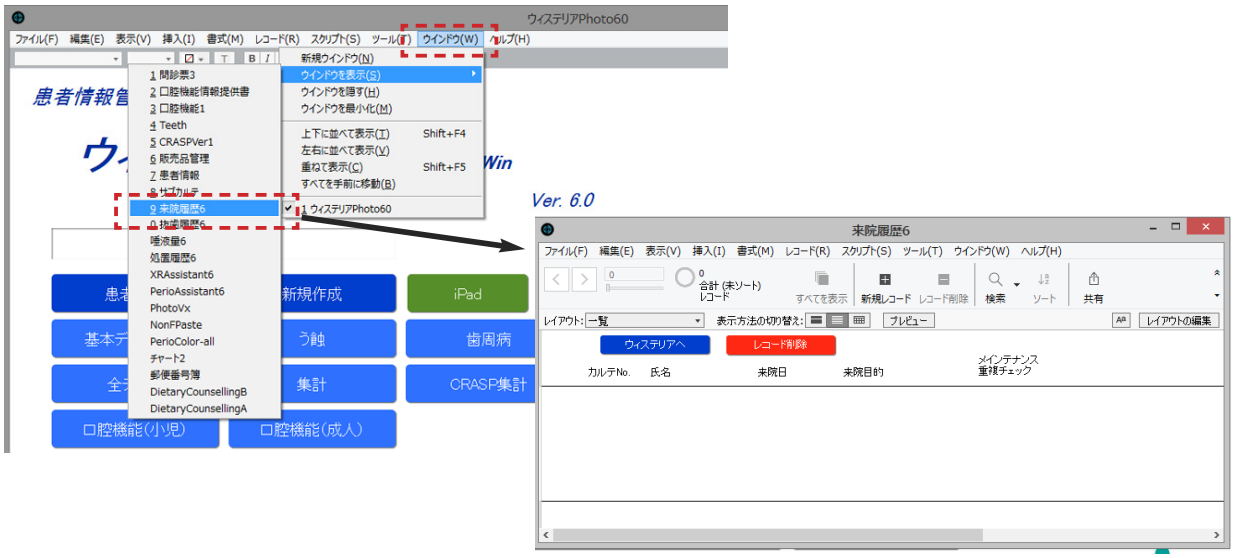


d-9-4 インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．［OK］して処置履歴 6 のインポートは終了です．



d-9-5 同様に d-9-1 で表示したほかのファイルも開きインポートします．

❗ 最初にウィステリアを開くときに「**開始.fmp12**」を使ってすべてのファイルを開いた場合は，上部メニューバー「ウインドウ」→「ウインドウを表示」からほかのファイルを表示できます．
開きたいファイル名をクリックするとそのファイルが表示されます．



注 すべてのデータの移行が終わりましたら，**旧ウィステリアはパソコンから削除**してください．保管する場合は別のメディア等をご使用ください．

E　ウィステリア Pro3.1 をインポートする

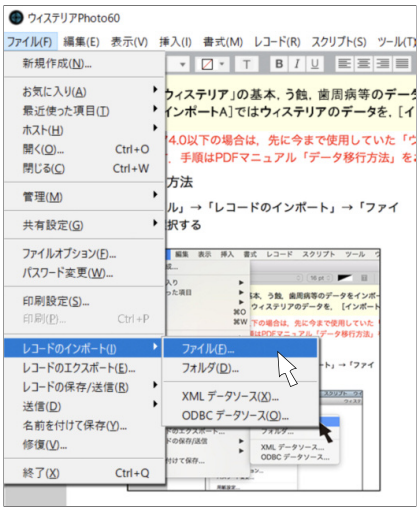
ウィステリア Pro3.1 のデータを変換する

e-1　ご使用中の《ウィステリアPro3.1》(FileMaker Pro8.5-11・拡張子.fp7）を FileMaker Pro15-19 のファイル形式（拡張子.fmp12）に変換します．変換手順はウィステリアPro4.0 の変換と同じです．

b-1～b-3（8 ページ）をご参照ください．

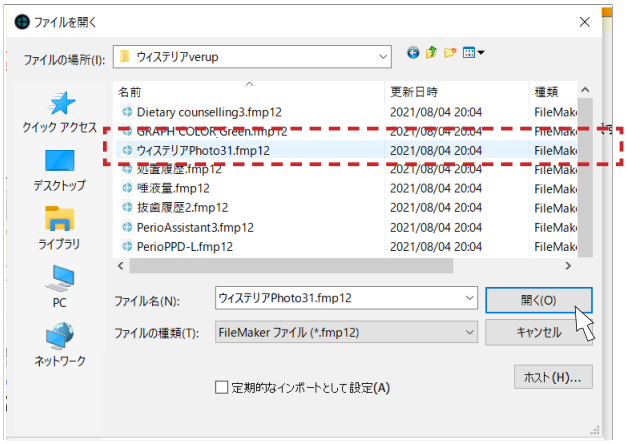
ウィステリア Pro6.0 にデータをインポートする

e-2　《ウィステリア 6.0》を立ち上げ，メニュー画面の［初期設定画面へ］ボタンをクリックして「初期設定 1」画面を開き，インポートA ボタンをクリックします．インポートの方法が表示されますので，手順を確認します．

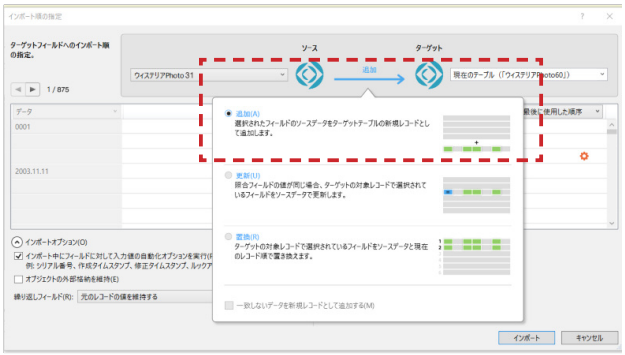


上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．

「ファイルを開く」ダイアログが表示されますので，b-3 で変換した「ウィステリア verup」フォルダ内の“ウィステリア Photo31.fmp12”を選択し，［開く］をクリック．



e-3　インポート順の設定が表示されます．「追加」をチェックします．



e-4　ソース（インポート元）：**ウィステリア Photo31**

ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（ウィステリア Photo60）**

となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にします．

インポートオプション「インポート中、入力値の自動化オプションを実行」のチェックが入っていたら，チェックを外し，繰り返しフィールド「元のレコードの値を維持する」になっていることを確認し［インポート］をクリックします．



e-5　インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．

［OK］してウィステリアのインポートは終了です．

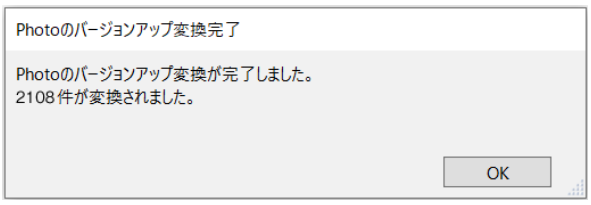
e-6　戻る　をクリックして初期設定 1 の画面に戻ります．

Photo バージョンアップ変換 ボタンをクリックして 4 枚写真，9 枚写真が件数制限なしで管理できるように変換します．

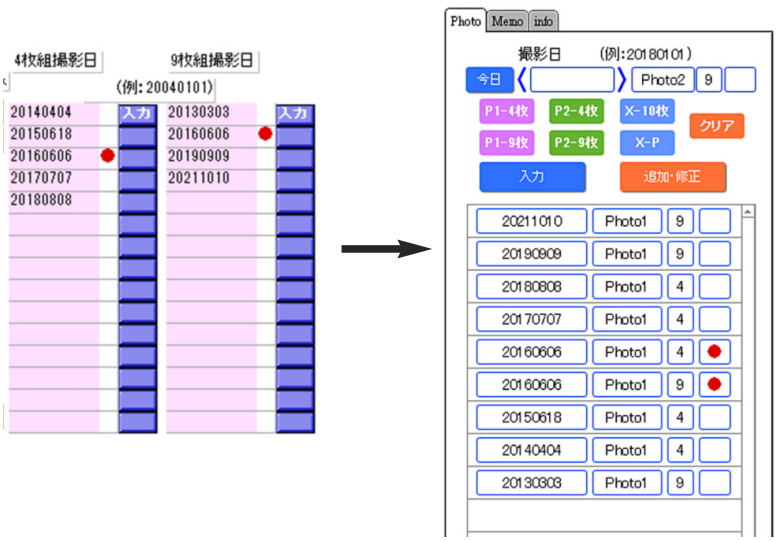
この作業は**最初に 1 度**行います．

変換が終了すると，終了のダイアログが表示されます．





注　4 枚写真，9 枚写真の取込／表示を使用していた場合は**必ず**このボタンをクリックしてください（写真を使用していなかった場合は不要）．

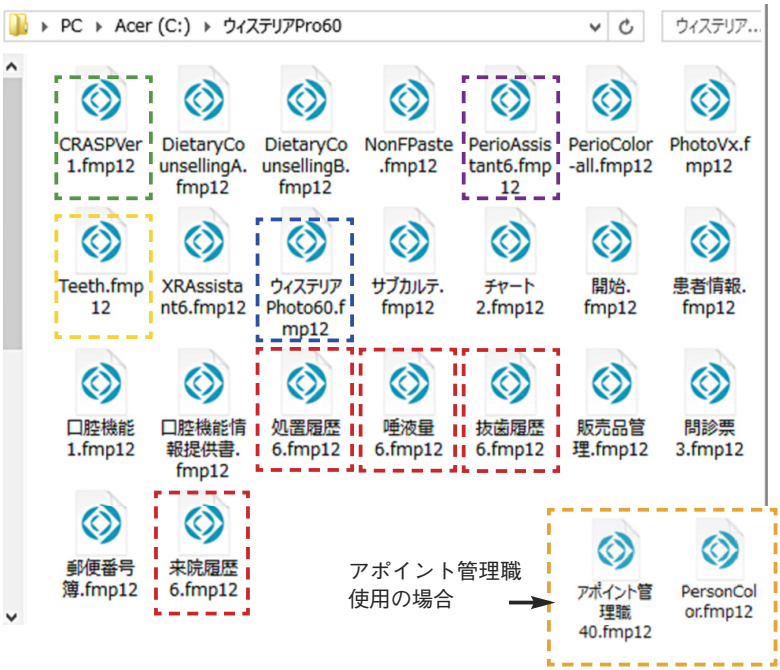


e-7-1　以下のファイルもそれぞれ開き，各ファイルを個別にインポートします．

インポートが必要なファイル（図中 ）

・**処置履歴 6**.fmp12
・**唾液量 6**.fmp12
・**抜歯履歴 6**.fmp12
・**来院履歴 6**.fmp12
PerioAssistant6.fmp12
・**CRASPVer1**.fmp12（単独版使用がある場合（図中 ）
・**teeth**.fmp12（PerioAssistant2 で詳細データ入力をしている場合（図中 ）手順→50 ページへ

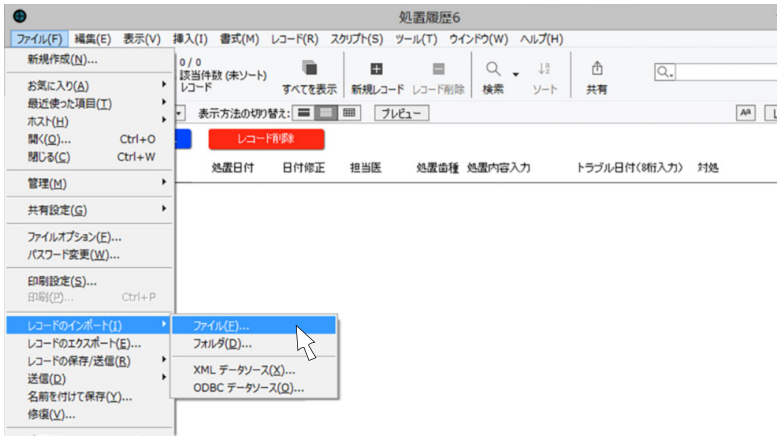
アポイント管理職ご使用の場合（図中 ）
・**アポイント管理職 40**.fmp12
・**PersonColor**.fmp12（購入時にカスタマイズ済みの場合は不要）



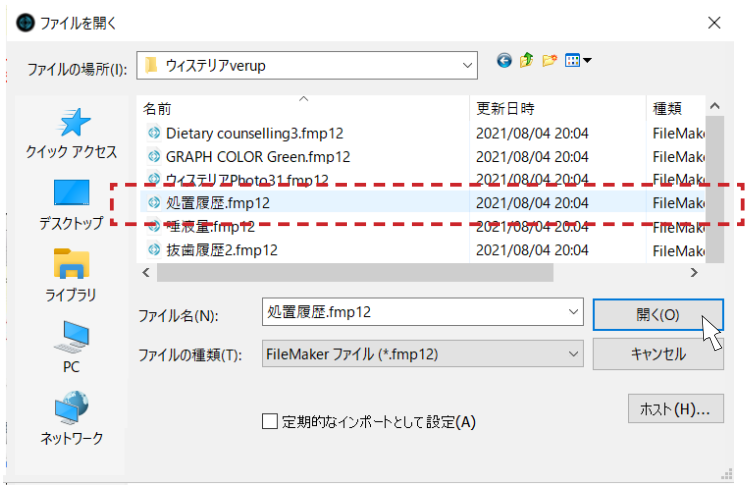
㊟ PerioAssistant2 は **PerioAssistant6**（図中 ）に直接インポートできません．
28 ページからの手順を確認のうえコンバートしてからインポートしてください．

e-7-2　**処置履歴をインポートする**

処置履歴 6.fmp12 をダブルクリックして開きます．
上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．



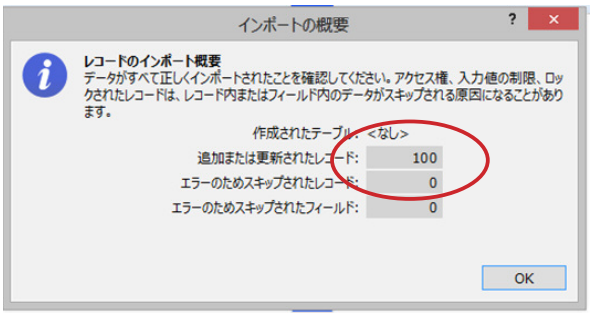
ファイルを開くダイアログが表示されますので，b-3 で変換した「ウィステリア verup」フォルダ内の“処置履歴.fmp12”を選択し，開きます．



e-7-3　インポート順の設定が表示されます．「追加」をチェックし，
　ソース（インポート元）：**処置履歴**
　ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（処置履歴 6）**
となっていることを確認します．
配置順を「照合明順」にし，［インポート］をクリックします．



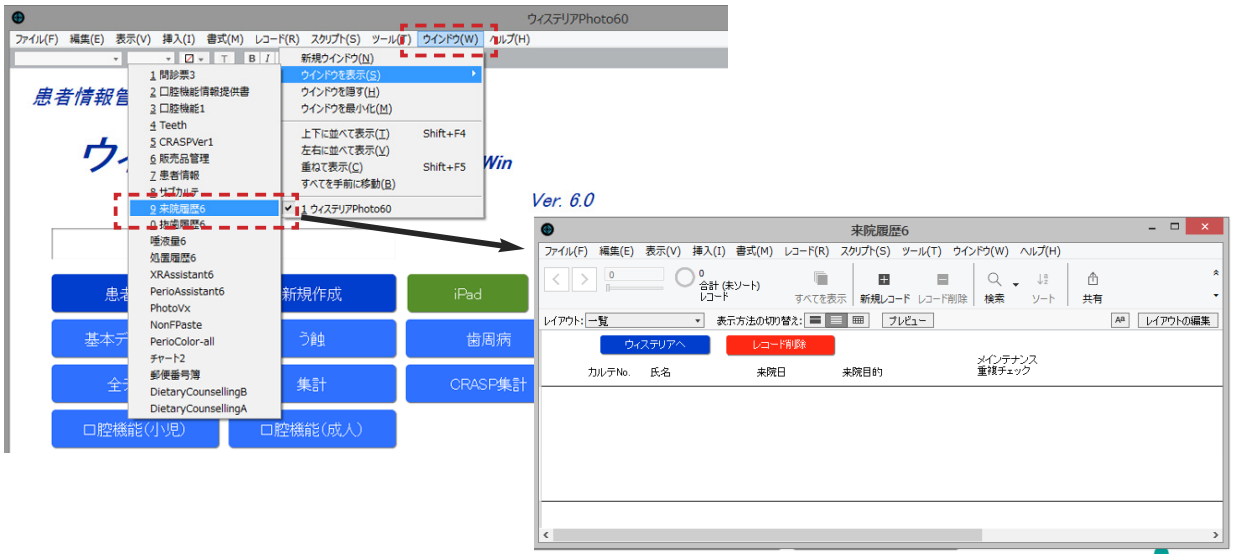
e-7-4　インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．
［OK］して処置履歴 6 のインポートは終了です．



e-7-5　同様にe-7-1 で表示したほかのファイルも開きインポートします．

㊟ すべてのデータの移行が終わりましたら，**旧ウィステリアはパソコンから削除**してください．保管する場合は別のメディア等をご使用ください

❗ 最初にウィステリアを開くときに「**開始.fmp12**」を使ってすべてのファイルを開いた場合は，上部メニューバー「ウインドウ」→「ウインドウを表示」からほかのファイルを表示できます．
開きたいファイル名をクリックするとそのファイルが表示されます．



PerioAssistant2 を PerioAssistant6 にインポートする

PerioAssistant は入力方法が 4 点から 6 点へ変更されました．そのため，データ変換用のコンバートファイルを使用します．PerioAssistant2 からPerioAssistant6 へ直接インポートはできませんので，ご注意ください．

変換の手順は，

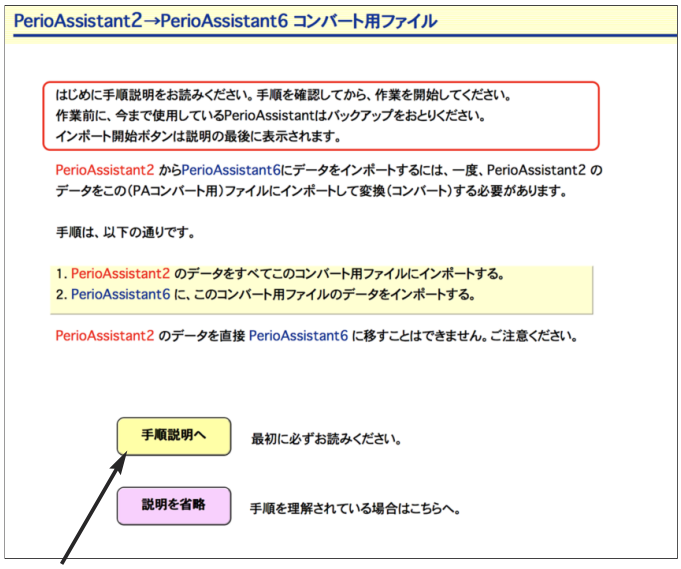
〈e-8〉 PerioAssistant2 のデータを“PA コンバート用”ファイルにインポートする．
〈e-11〉PerioAssistant6 に〈e-8〉で変換した“PA コンバート用”ファイルデータをインポートする

となります．

e-8 PerioAssistant2 のデータを“PA コンバート用.fmp12”ファイルへ移します．

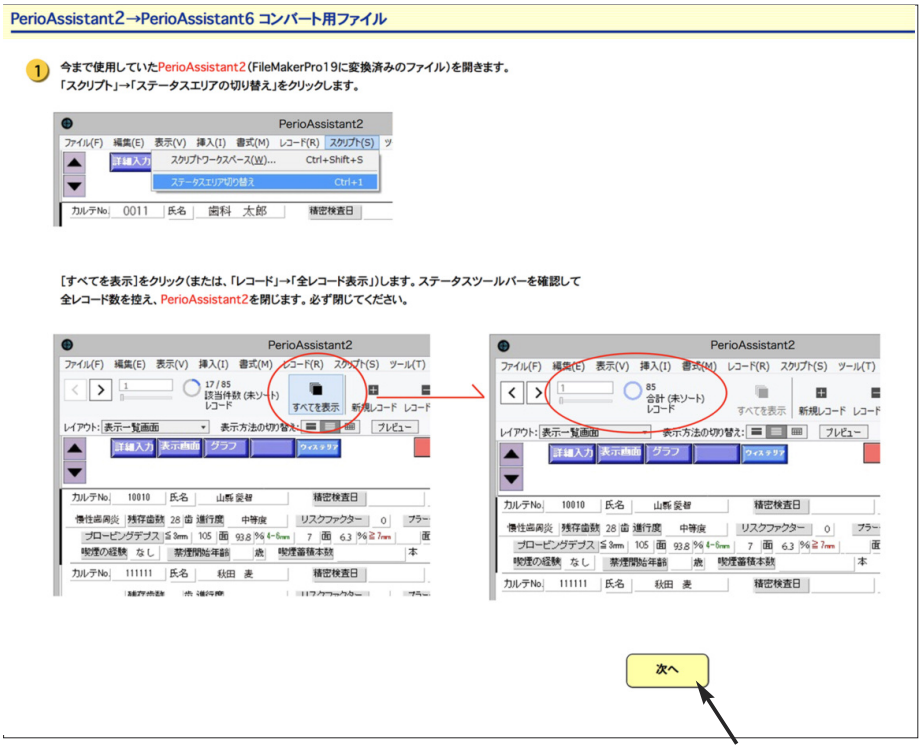
USB に同梱の“PA コンバート用.fmp12”をパソコンの任意の場所にコピーします（例：デスクトップ）．

“PA コンバート用.fmp12”をダブルクリックして開きます．初めて作業される場合は，手順説明へ ボタンをクリックし，コンバート手順を確認します．手順説明は 3 ページあります．次へ ボタンで読み進んでください．



手順の説明を開始します．最初に必ずお読みください．

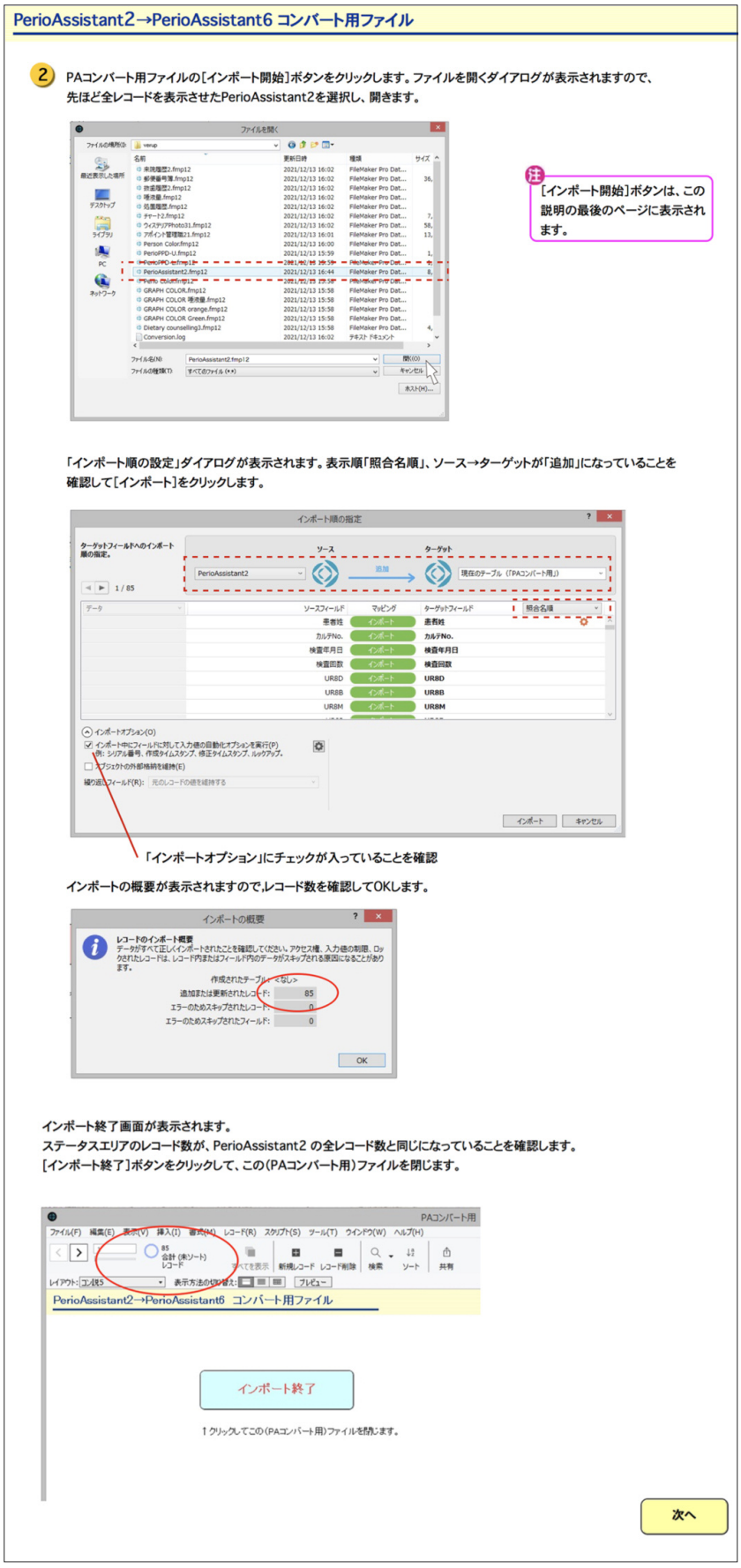
注 次へ のボタンは画面の一番下にあります．画面を下へスクロールして読み進んでください（マウスホイールで画面スクロールできない場合があります）．



e-9　既に手順を理解されている場合は，[説明を省略] ボタンをクリックします．
説明終了後，または [説明を省略] をクリックすると，[インポート開始] ボタンが表示されます．ボタンをクリックしてインポートを開始します（手順説明の通り操作します）．

e-10　「インポート順の設定」が表示されますので，「追加」をチェックし，
ソース(インポート元)：
PerioAssistant2
ターゲット(インポート先)：
現在のテーブル（「PA コンバート用」）
となっていることを確認し，配置順を「照合明順」にします．
「インポートオプション」上段の□にチェックが入っていることを確認して［インポート］します．

インポート終了後，終了画面が表示されますので，レコード数を確認し，[インポート終了] ［インポート終了］ボタンをクリックして，“PA コンバート用”ファイルを閉じます．



PerioAssistant6 に“PA コンバート用.fmp12”ファイルのデータをインポートする

e-11　新しい“PerioAssistant6.fmp12”を開きます．メニューバー「スクリプト」→「PA コンバート用ファイルをインポート」を選択します．「ファイルを開く」ダイアログが表示されますので，手順e-10 でデータをコンバートした“PA コンバート用.fmp12”を開きます．

「インポート順の設定」が表示されますので，「追加」をチェックし，

ソース(インポート元)：

PA コンバート用.fmp12

ターゲット(インポート先)：

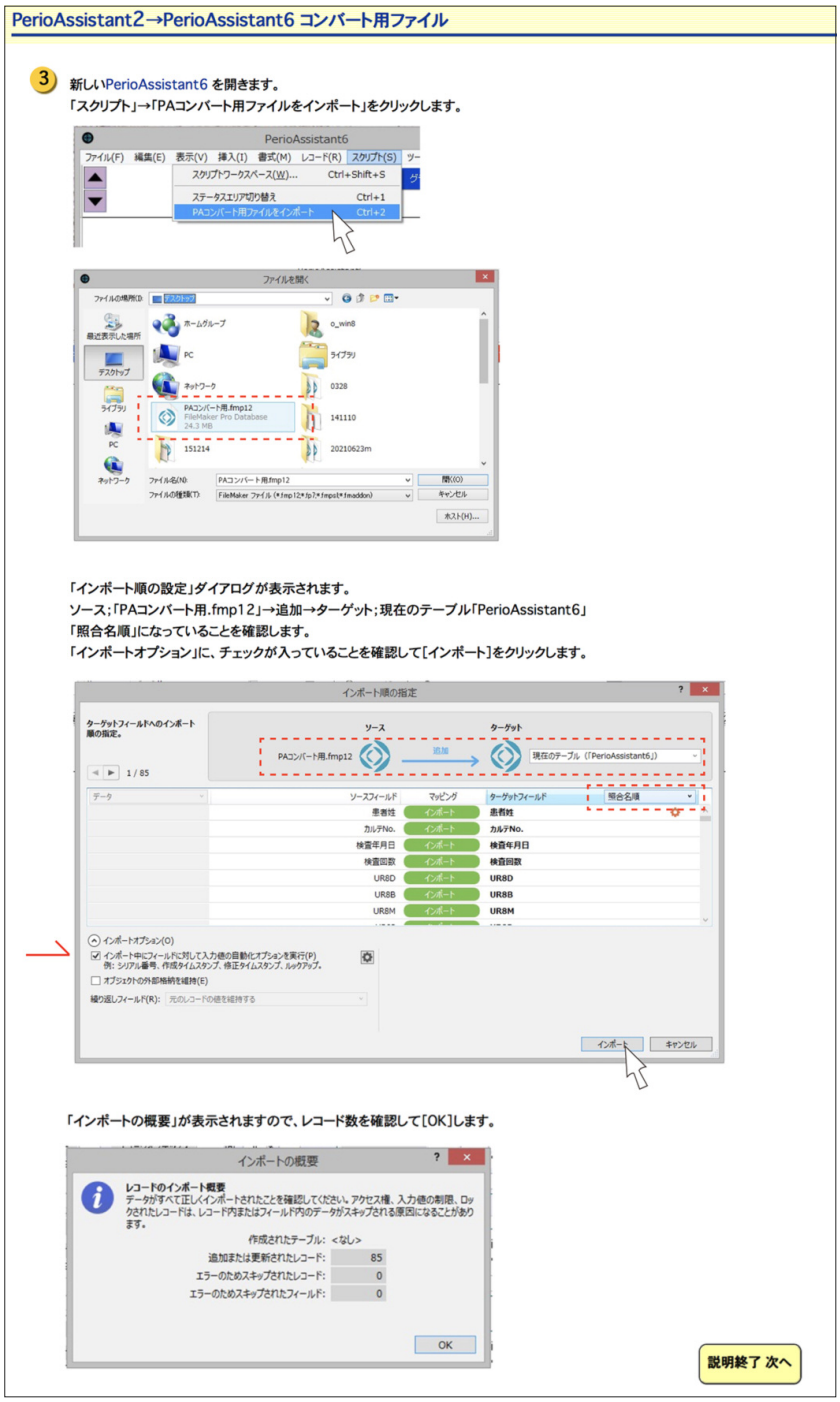
現在のテーブル

（「Perio-Assistant6」）

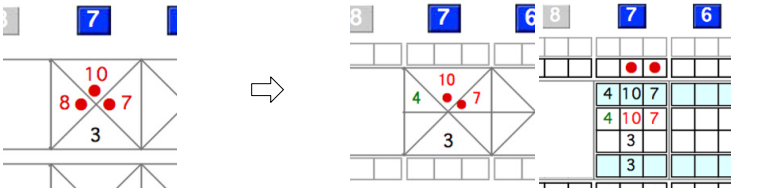
となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にします．「インポートオプション」上段の□にチェックが入っていることを確認して［インポート］します．

インポートが終了すると，〈一覧画面〉が表示されます．ステータスツールバーのレコード数がPerioAssistant2 と同じになっていることを確認してください．

注　インポート終了後，“PA コンバート用.fmp12”ファイルは**削除**します．



変換後の表示は右のようになります



4 点法入力時の〈表示画面〉　　6 点法に変換した〈表示画面〉と〈入力画面〉

F　ウィステリア Pro3.0 をインポートする

ウィステリア Pro3.0 のパスワードを削除する

f-1　ご使用の《ウィステリアPro3.0》にユーザーパスワードが設定されている場合は，先に削除します．パスワードが有効なまま FileMakerPro15-19 のファイル形式にアップするとアクセスできなくなることがあります．

【パスワードの削除方法】

① ファイルメーカーPro 6 で使用中のウィステリアを開きます．

② メニューバー「ファイル」から「アクセス権」→「パスワード定義」を選びます．

③ パスワード定義のダイアログボックスが開きますので，左窓内のパスワード「user」(初期設定の場合）を選択反転し，［削除］します．左窓内が空欄になったことを確かめてから［終了］します．

注 パスワード欄に「*」が入っていることがあります．この場合も削除してください．パスワードが定義されていない場合はこの作業は不要です

f-2　《ウィステリア》のファイル名を確認します．“ウィステリアPhoto3.0.fp5”となっていましたら，3.0 から「.」を削除し“ウィステリアPhoto30.fp5”に変更します．

注 2004 年 6 月以前に購入された方はご注意ください．

f-3　以降の手順は《ウィステリアPro3.0.2》からとほぼ同じです．d-1～d-8（18 ページ～）を参照ください．

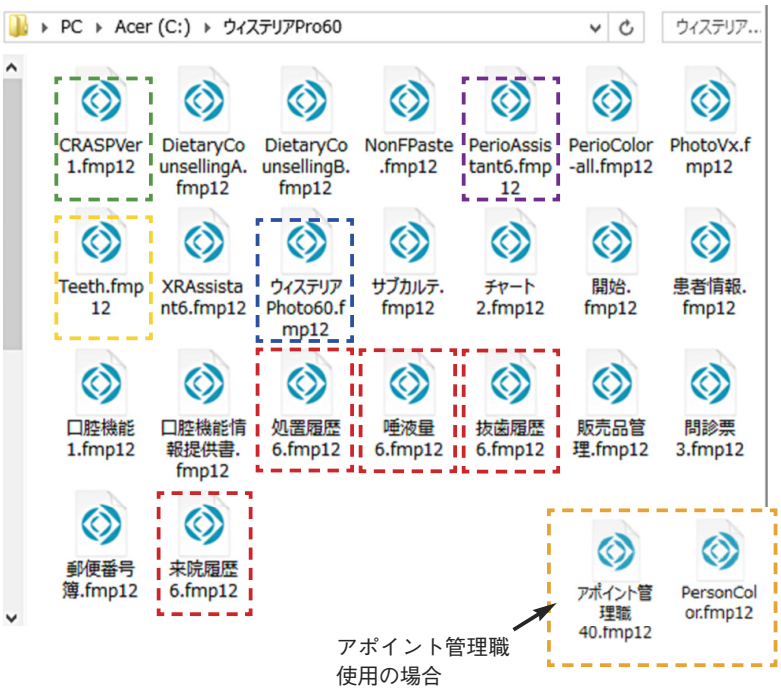
f-4　以下のファイルもそれぞれ開き，各ファイルを個別にインポートします．d-9-2～（22 ページ～）参照．

インポートが必要なファイル（図中 ）

- **処置履歴 6**.fmp12
- **唾液量 6**.fmp12
- **抜歯履歴 6**.fmp12
- **来院履歴 6**.fmp12
- **PerioAssistant6**.fmp12
- **CRASPVer1**.fmp12（単独版使用がある場合（図中 ））
- **teeth**.fmp12（PerioAssistant2 で詳細データ入力をしている場合（図中 ）手順→50 ページへ

アポイント管理職をご使用の場合（図中 ）

- **アポイント管理職 40**.fmp12
- **PersonColor**.fmp12（購入時にカスタマイズ済みの場合は不要）



注 PerioAssistant2 は **PerioAssistant6**（図中 ）に直接インポートできません．e-8～e-11（28 ページ～）の手順をご確認のうえ，コンバートしてからインポートします．

G　ウィステリア Photo2.2 以下をインポートする　（変換は２段階必要）

※ファイルメーカーPro5-6 のファイル（拡張子; .fp5）は FileMaker Pro15-19 のファイル形式（拡張子; .fmp12）にする前に，FileMaker Pro8.5-11 の形式（拡張子; .fp7）にする必要があります．

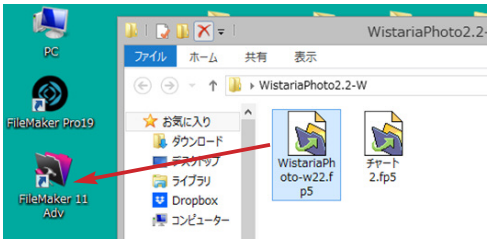
※FileMaker Pro11 をお持ちでない場合は，Claris 社サイトより評価版を入手してください．評価版は 30 日間使用できます．Claris 社サイトナレッジベース『FileMaker ファイルを「.fmp12」ファイル形式に変換』記事内からダウンロード可能です（https://support.claris.com/s/answerview?anum=000024703&language=ja）．

ウィステリア Photo2.2 のデータを変換する（拡張子 fp5→fp7→fmp12）

g-1　《ウィステリア》のファイル名を変更します．

“wistariaPhoto2.2-w.fp5”の 2.2 から「.」を削除し，“wistariaPhoto22-w.fp5”とします（mac 版の場合は“wistariaPhoto2.2-m.fp5”を“wistariaPhoto22-m.fp5”とします．以下 Windows 版で説明します）．

g-2　“WistariaPhoto-w22.fp5”を FileMaker Pro11 のアイコンに重ねます．



g-3　“WistariaPhoto-w22”の変換のダイアログが表示されますので，［OK］します．



g-4　「変換後のファイル名」が表示されます．

保存先を指定（例では WistariaPhoto2.2-W フォルダ）して［保存］をクリックします．

FileMaker Pro11 の形式に変換されましたら，“WistariaPhoto-w22.fp7”を閉じます．

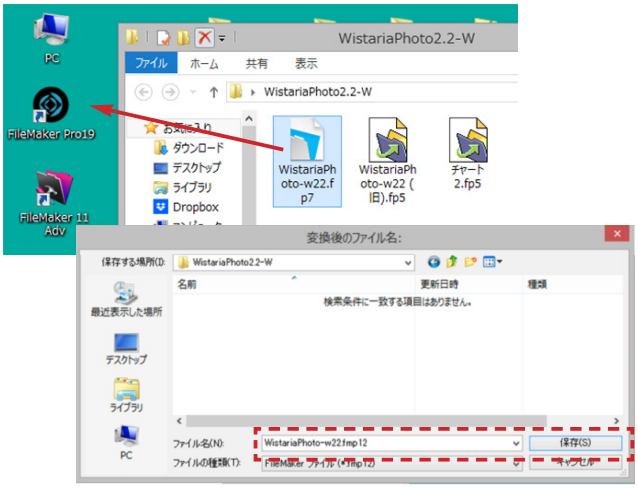
注　ファイルは必ず閉じてください．ファイルが開いていると，データがすべてインポートされない場合があります．



g-5　同様に FileMaker Pro19 の形式に変換します．

g-4 で変換した“WistariaPhoto-w22.fp7”を FileMaker Pro19 のアイコンに重ねます．

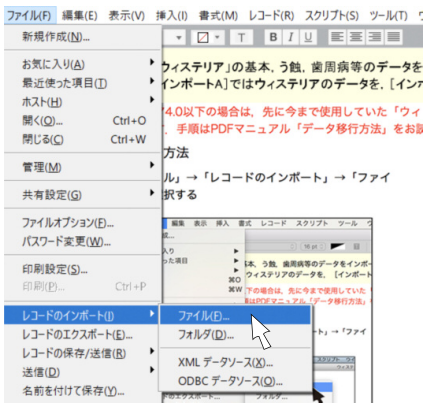
g-4 と同様に“WistariaPhoto-w22.fmp12”で保存します．



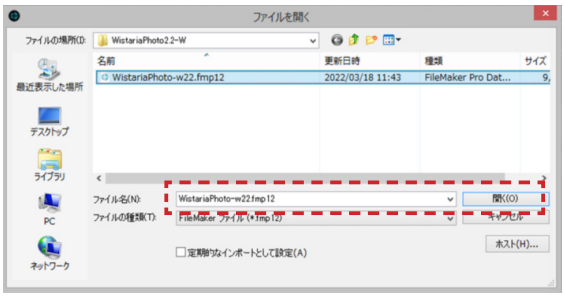
ウィステリア Pro6.0 にインポートする

g-6　《ウィステリア 6.0》を立ち上げ，メニュー画面の［初期設定画面へ］ボタンをクリックして「初期設定 1」画面を開き，インポートA ボタンをクリックします．インポートの方法が表示されますので，手順を確認します．

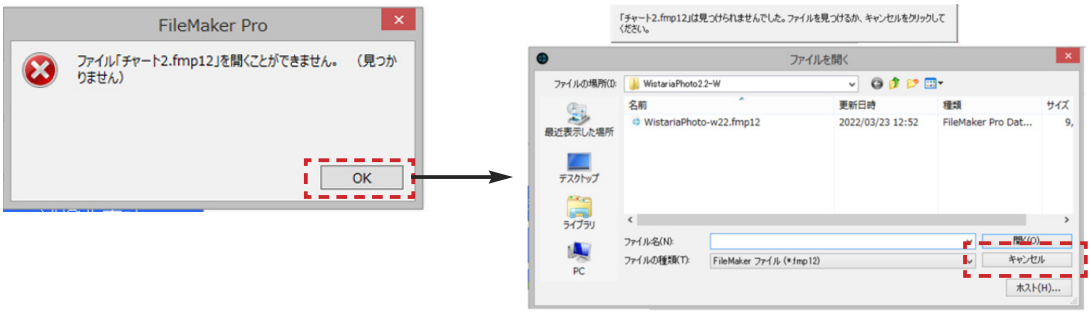
上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．



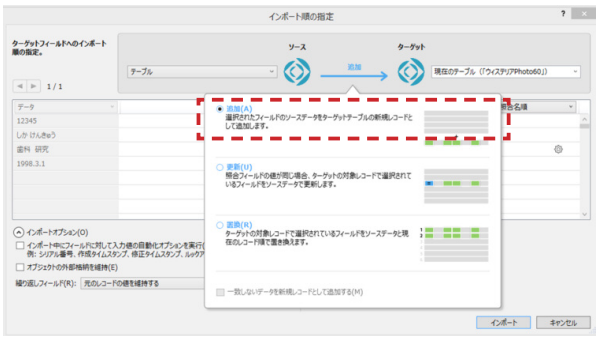
ファイルを開くダイアログが表示されますので，g-5 で変換した“WistariaPhoto-w22.fmp12”を選択し，開きます．



注　“チャート 2.fmp12”が見つかりませんというダイアログが表示された場合は［OK］→［キャンセル］をしてください



g-7　インポート順の設定が表示されます．「追加」をチェックします．



g-8　「フィールドデータのインポート順」ダイアログが表示されます．

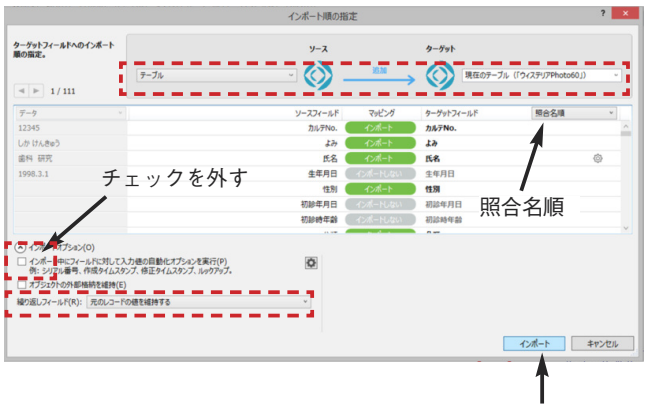
ソース（インポート元）：**テーブル**

ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（ウィステリア Photo60）**

となっていることを確認し，配置順を「**照合名順**」にします．

インポートオプション「インポート中，入力値の自動化オプションを実行」のチェックを外し，繰り返しフィールド「元のレコード値を維持する」になっていることを確認して，［インポート］をクリックします．

インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので．レコード数を確認し，［OK］します．

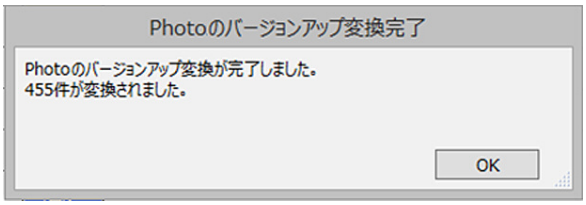


g-9　戻る　をクリックして初期設定 1 の画面に戻ります．

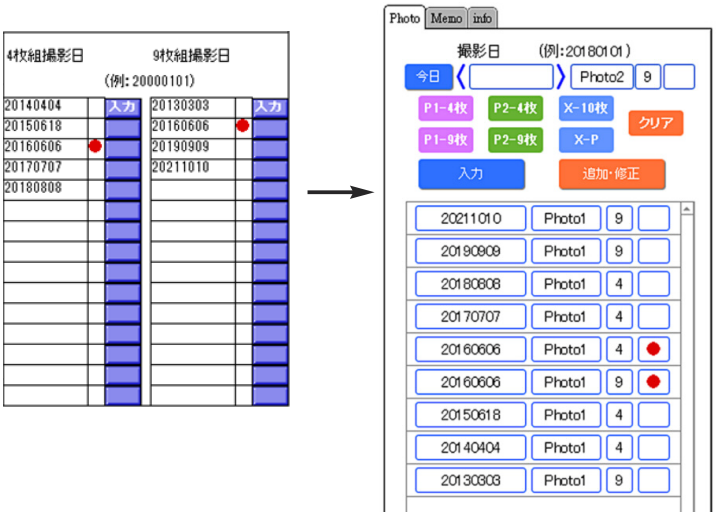
Photo バージョンアップ変換 ボタンをクリックします．

4 枚写真，9 枚写真が件数制限なしで管理できるようなります．この作業は**最初に 1 度**行います．変換が終了すると，終了のダイアログが表示されます．





㊟ 4 枚写真，9 枚写真の取込／表示を使用していた場合は，必ずこのボタンをクリックしてください（写真を使用していなかった場合は不要）．

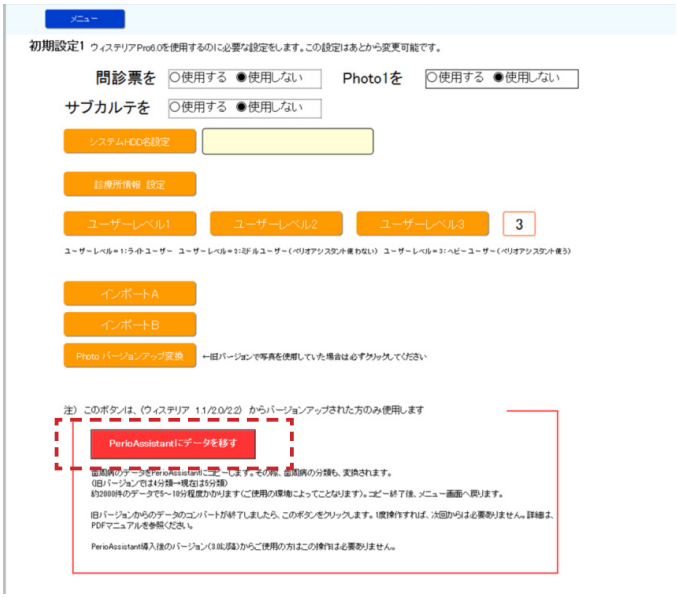


g-10　歯周病のデータを“PerioAssistant6.fmp12”に移します.

初期設定 1 画面下の PerioAssistantにデータを移す ボタンをクリックします.

歯周病のデータが“PerioAssistant6”にコピーされます．その際，歯周病の分類も変換されますので，データのインポート後，必ずこの操作を行ってください．この操作は **1 回のみ**実行します.

メニュー画面が表示されれば終了です.



（注）このボタン操作はウィステリア 2.2 以前からバージョンアップされた方のみ必要です.

（注）すべてのデータの移行が終わりましたら，**旧ウィステリアはパソコンから削除**してください．保管する場合は別のメディア等をご使用ください.

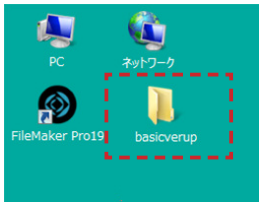
（注）ウィステリア 2.0／1.1 のデータ移行手順もウィステリア 2.2 とほぼ同じです.

H　ウィステリア Basic1.0 をインポートする

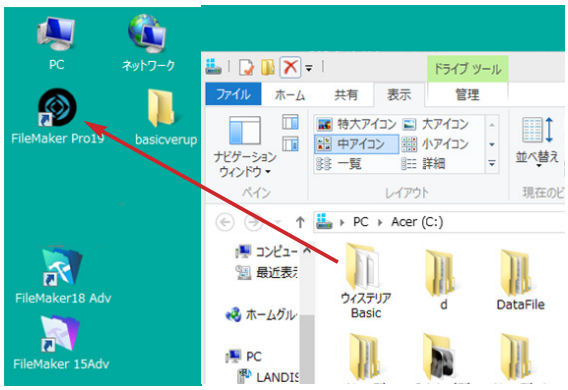
※ウィステリア Basic1.0 は FileMaker Pro10 で作成されています．ウィステリア 6.0 にインポートするには File-Maker Pro15-19 のファイル形式（拡張子; .fmp12）に変換する必要があります．

ウィステリア Basic 1.0 のデータを変換する

h-1　ご使用中の《ウィステリア Basic1.0》のデータを FileMaker Pro15-19 のファイル形式（拡張子.fmp12）の形式に変換します．先に変換先のフォルダを作成します．ここではデスクトップに「basicverup」の名前で作成しています（※以下 FileMakerPro19 で説明）．

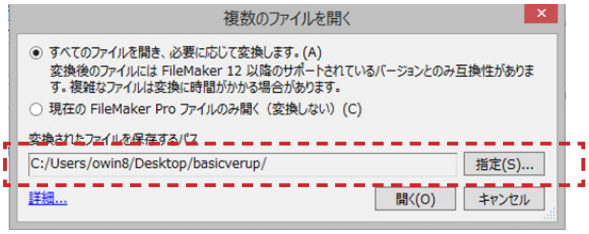


h-2　《ウィステリア Basic》をフォルダごとドラックして FileMaker Pro19 のアイコンに重ねます．



h-3　「複数のファイルを開く」ダイアログが表示されますので，［指定］をクリックし，「フォルダの参照」から h-1 で作成した「basicverup」を指定します（8 ページ 手順 b-3 参照）．

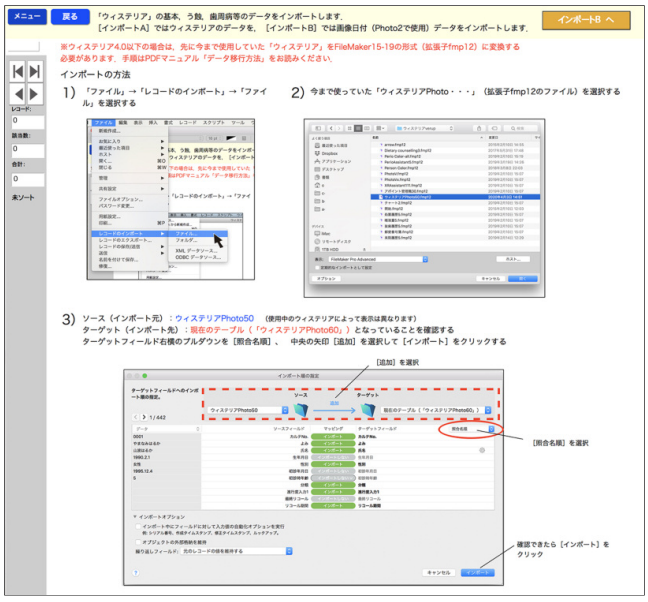
［開く］をクリックしてファイル変換を実行します．ファイル変換には数分時間がかかります．ファイル変換終了後ファイルが開きますので，すべて閉じます．



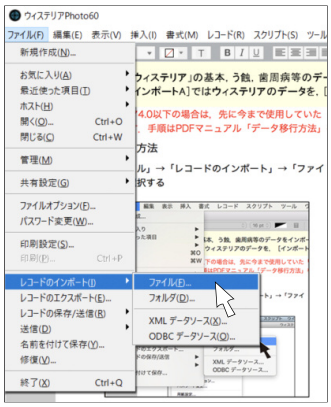
ウィステリア Pro6.0 にインポートする

注　“ウィステリア Basic1.0”からのデータの移行は，う蝕，歯周病などのデータのインポート「インポート A」と Photo2 で取り込んだ画像日付データのインポート「インポート B」を行う必要があります．

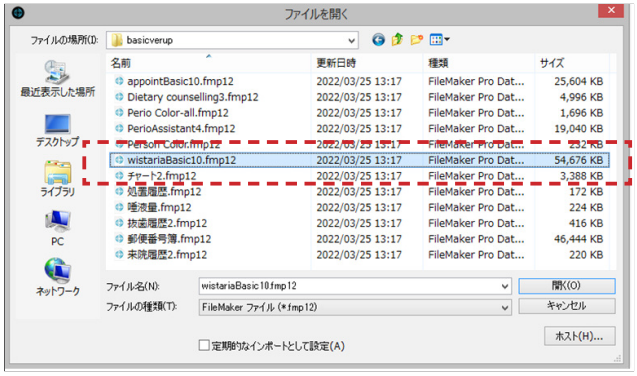
h-4　《ウィステリア 6.0》を立ち上げ，メニュー画面の［初期設定画面へ］ボタンをクリックして「初期設定 1」画面を開き，インポートA ボタンをクリックします．インポートの方法が表示されますので，手順を確認します．



上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します.



ファイルを開くダイアログが表示されますので，h-3 で変換した「basicverup」フォルダ内の“wistariaBasic10.fmp12”を選択し，開きます.



h-5　フィールドデータのインポート順ダイアログが表示されます.「追加」をチェックします.

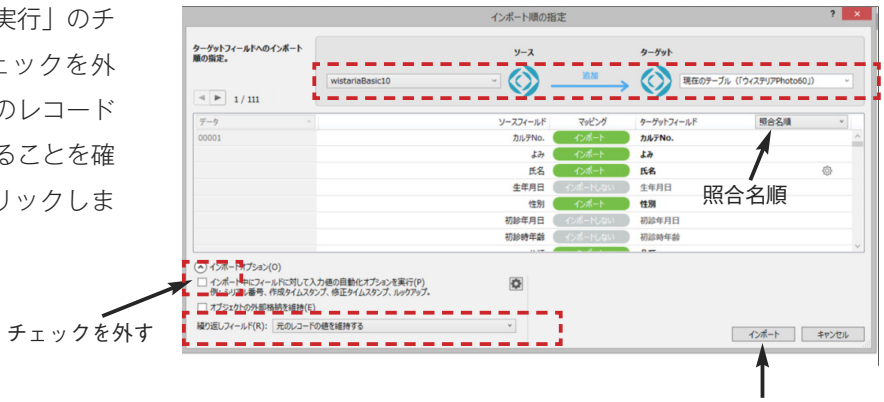


h-6　ソース（インポート元）：**wistariaBasic10**

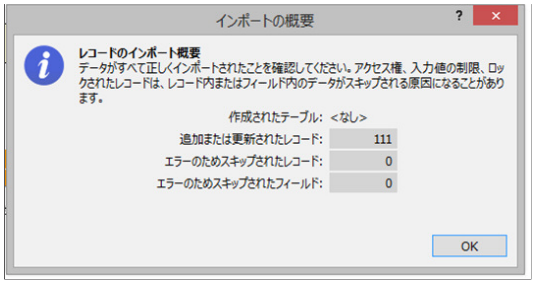
ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（ウィステリア Photo60）**

となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にします.

インポートオプション「インポート中、入力値の自動化オプションを実行」のチェックが入っていたら，チェックを外し，繰り返しフィールド「元のレコードの値を維持する」になっていることを確認して，［インポート］をクリックします.



h-7　インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．［OK］してウィステリアのインポートは終了です．



※写真の取り込みをご使用になっていない場合は，h-8～h-10 の作業は不要です．

h-8　インポートB ボタンをクリックします．ここではPhoto2 の画像日付をインポートします．

注 必ずこの画面を表示した状態でインポートしてください．メニュー，う蝕，歯周病画面等では画像日付をインポートできません．



ウィステリアの手順と同様に上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．ファイルを開くダイアログが表示されますので，h-3 で変換した「basicverup」フォルダ内の“wistariaBasic10.fmp12”を選択し，開きます．

h-9　フィールドデータのインポート順ダイアログが表示されます．

ソース（インポート元）：**画像日付**

ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（画像日付 6）**

となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にし，［インポート］をクリックします．

インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認し［OK］して画像日付のインポートは終了です．

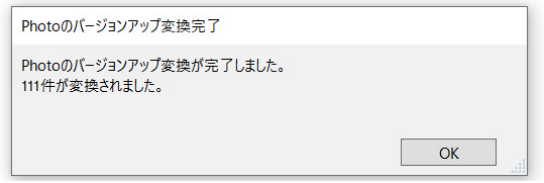


h-10 戻る をクリックして初期設定 1 の画面に戻ります.

Photo バージョンアップ変換 ボタンをクリックして「Photo1」と「Photo2」が一元で管理できるように変換します（ウィステリア Basic では「Photo1」はありませんが,「Photo2」と一元で管理できるように変換が必要です）. この作業は最初に 1 度行います. 変換が完了すると，終了のダイアログ表示されます.

注 このボタンをクリックしないと，各画面にある Photo タブに日付が表示されません．ウィステリア Basic からのバージョンアップでも必須の作業になります．写真を使用していなかった場合は不要です.





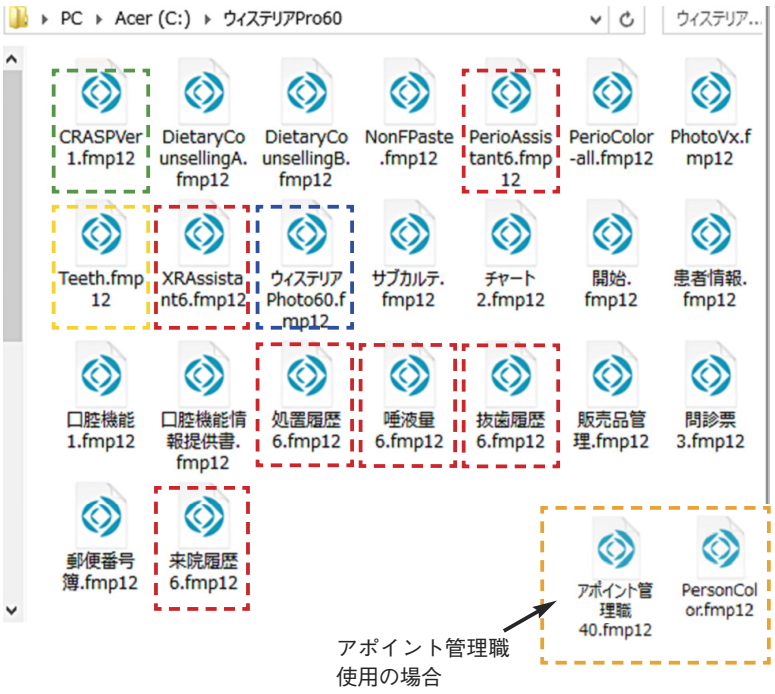
h-11 以下のファイルもそれぞれ開き，各ファイルを個別にインポートします（以下の手順はウィステリア 4.0 の場合とほぼ同様です．12 ページ～をご参照ください）.

インポートが必要なファイル（図中 ）

- **処置履歴 6**.fmp12
- **唾液量 6**.fmp12
- **抜歯履歴 6**.fmp12
- **来院履歴 6**.fmp12
- **XRAssistant6**.fmp12
- **PerioAssistant6**.fmp12
- **CRASPVer1**.fmp12（単独版使用がある場合（図中 ）
- **teeth**.fmp12（PerioAssistant で詳細データ入力をしている場合（図中 ）手順→50 ページへ

アポイント管理職ご使用の場合（図中 ）

- アポイント管理職 40.fmp12（《ウィステリア Basic》でご使用のアポイント管理職のファイル名は“**appointBasic10**”です）
- **PersonColor**.fmp12（購入時にカスタマイズ済みの場合は不要）



I　試用版ウィステリアをインポートする

※試用版は最初に開いてから「3 ヵ月」経過，またはレコード数が「50」を超えると起動しなくなります．データの移行もできなくなります．ご注意ください．

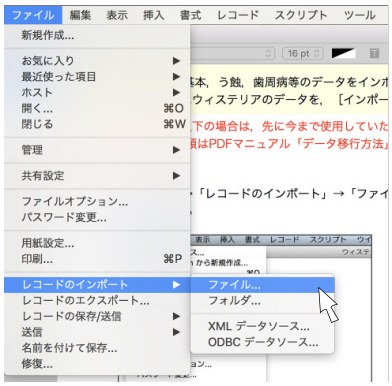
ウィステリア Pro6.0 にインポートする

㊟ 試用版ウィステリアからのデータの移行は，う蝕，歯周病などのデータのインポート［インポート A］と写真の取り込みで使用した Photo2 で取り込んだ画像日付データのインポート［インポート B］を行う必要があります．

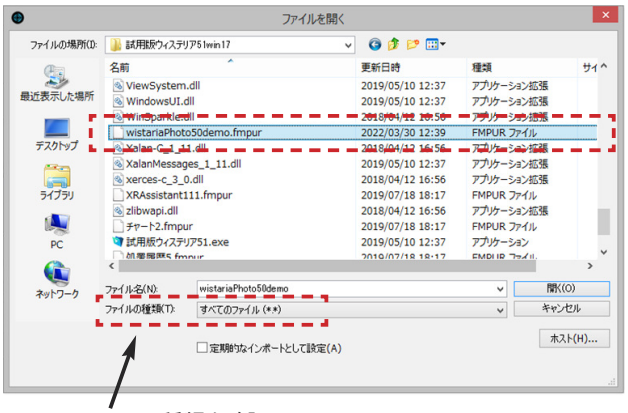
I-1　《ウィステリア 6.0》を立ち上げ，メニュー画面の［初期設定画面へ］ボタンをクリックして「初期設定 1」画面を開き，インポートA ボタンをクリックします．インポートの方法が表示されますので，手順を確認します．
上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．



インポート A 画面



ファイルを開くダイアログが表示されますので，ファイルの種類を「すべてのファイル（*.*）」にして，《試用版ウィステリア 51win17》 フォルダ内の“wistariaPhoto50demo.fmpur”を選択して開きます．

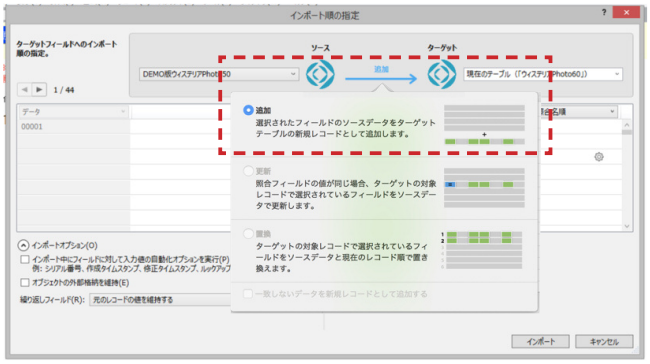


ファイルの種類を確認

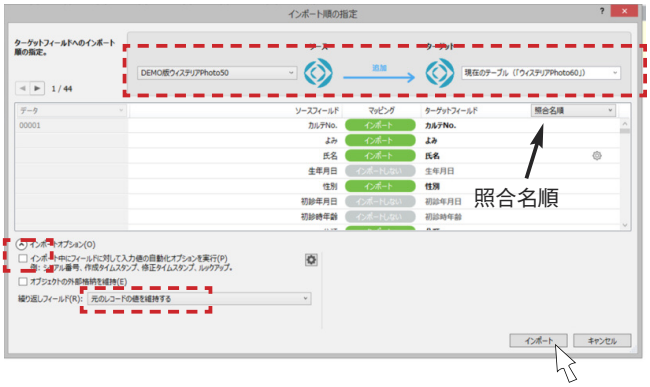
㊟ 試用版起動用の“試用版ウィステリア 51.exe”ではインポートできません．ご注意ください．

㊟ 試用版フォルダ名は，Windows または Macintosh で異なります．

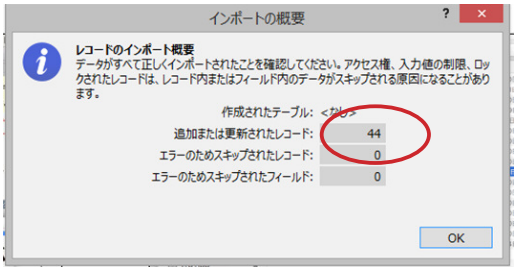
I-2　インポート順の設定が表示されます．
「追加」をチェックをします．



I-3　ソース（インポート元）：**DEMO 版ウィステリア Photo50**
ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（ウィステリア Photo60）**
となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にします．
インポートオプション「インポート中、入力値の自動化オプションを実行」のチェックが入っていたら，チェックを外し，繰り返しフィールド「元のレコードの値を維持する」になっていることを確認し［インポート］をクリックします．



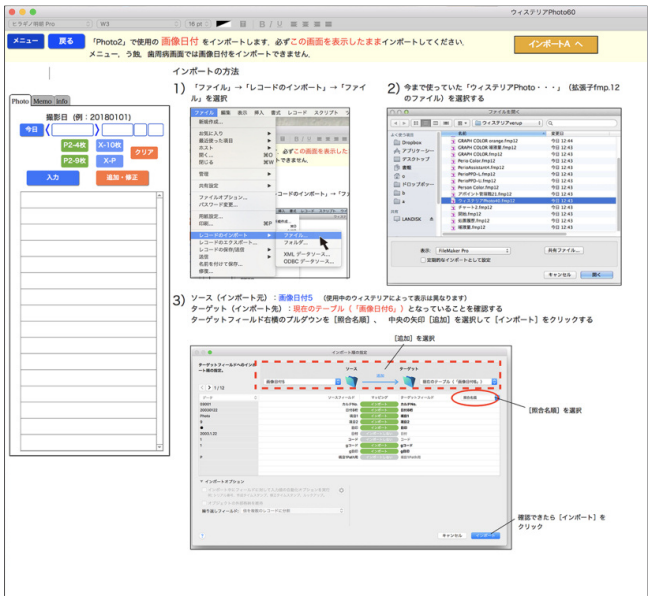
I-4　インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．［OK］してウィステリアのインポートは終了です．



I-5　インポートB　ボタンをクリックします．
ここではPhoto2 の画像日付をインポートします．

注　必ずこの画面を表示した状態でインポートしてください．メニュー，う蝕，歯周病画面等では画像日付をインポートできません．

ウィステリアの手順と同様に上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．
ファイルを開くダイアログが表示されますので，《試用版ウィステリア 51win17》フォルダ内の“wistariaPhoto50demo.fmpur”を選択し，開きます．



インポート B 画面

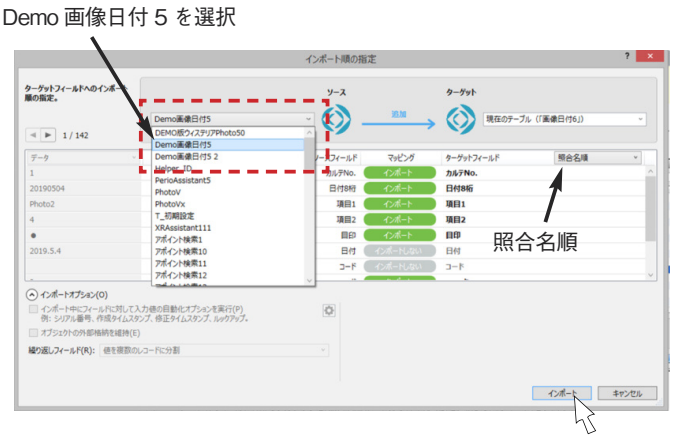
I-6　フィールドデータのインポート順ダイアログが表示されます．

ソース（インポート元）：**Demo 画像日付 5**

ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（画像日付 6）**

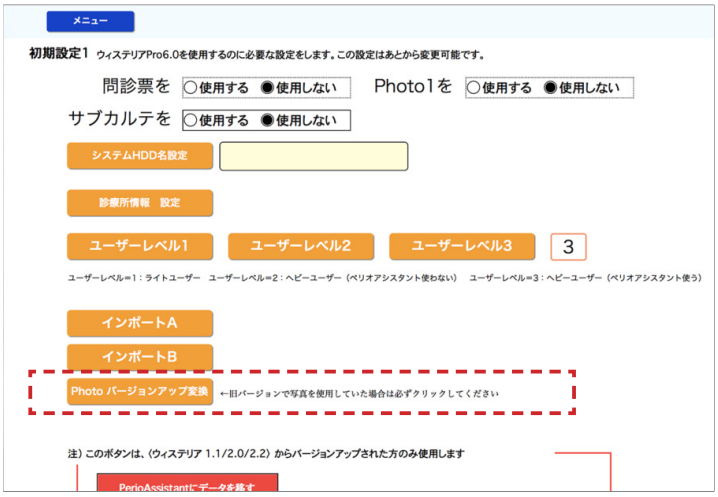
となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にし，［インポート］をクリックします

インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．［OK］して画像日付のインポートは終了です．



I-7　戻る をクリックして初期設定 1 の画面に戻ります．

Photo バージョンアップ変換 ボタンをクリックして「Photo1」と「Photo2」が一元で管理できるように変換します．この作業は**最初に 1 度**行います．変換が終了すると，終了のダイアログが表示されます（件数は合算されます）．



注　試用版の場合も「Photo2」を使用していた場合はこの作業が**必要**です．このボタンをクリックしないと，各画面にある Photo タブに日付が表示されません

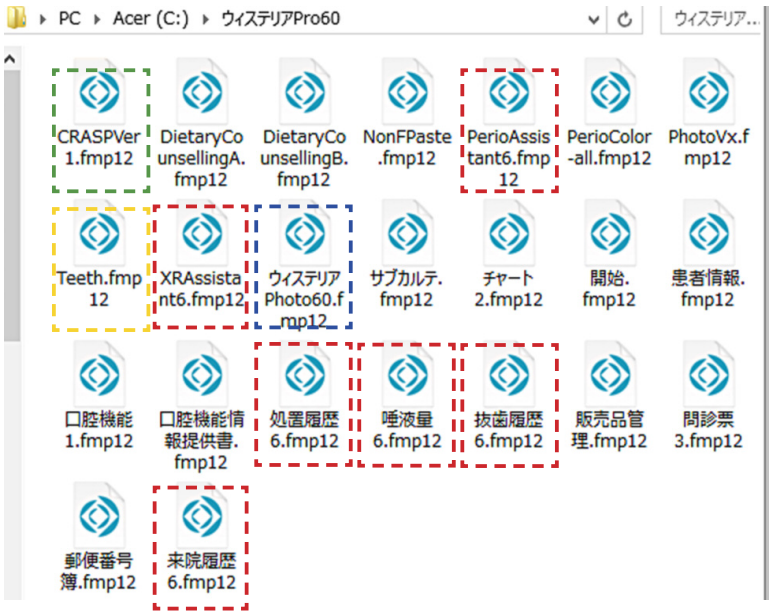
写真を使用していない場合は不要です．

I-8-1　以下のファイルもそれぞれ開き，各ファイルを個別にインポートします．

インポートが必要なファイル（図中 ）

- **処置履歴 6**.fmp12
- **唾液量 6**.fmp12
- **抜歯履歴 6**.fmp12
- **来院履歴 6**.fmp12
- **XRAssistant6**.fmp12
- **PerioAssistant6**.fmp12
- **CRASPVer1**.fmp12（単独版使用がある場合（図中 ））
- **teeth**.fmp12（PerioAssistant で詳細データ入力をしている場合（図中 ））手順→50 ページへ

インポート手順は《ウィステリア 5.x》とほぼ同様です．（6 ページa-8-2 以下参照）



J　単独版の CRASPVer1_alone を CRASPVer1（ウィステリアと連携）にインポートする

単独使用していた“CRASPVer1_alone.fmp12”のデータを《ウィステリア 6.0》と連携した“CRASPVer1.fmp12”にインポートします．ウィステリアに CRASPの結果を表示できるようになります．

iPad（単体）で使用していた CRASP をパソコンへコピーする

FileMaker Pro（または FileMaker Server）を使用せずに，《CRASP》を iPad で単独使用していた場合は，iPad 内の CRASPVer1_alone.fmp12 をパソコンへコピーします．

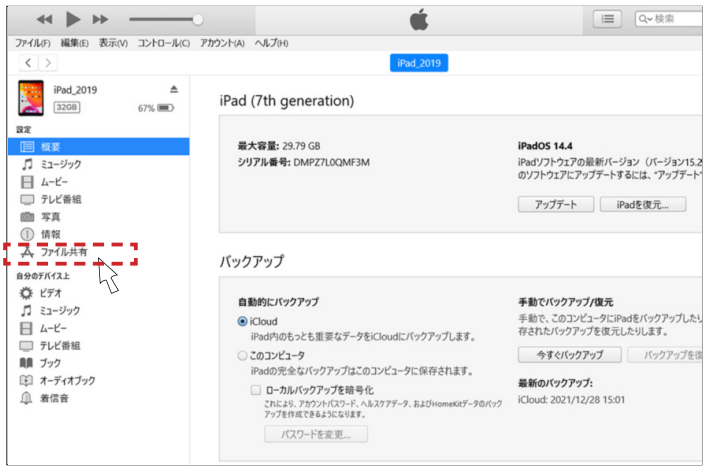
【Windows の場合（iTunes を使用）】

J-1　iPad をパソコンに USB ケーブルで接続し，iTunes を起動します．

J-2　左上のバーに iPad のアイコンが表示されますので，クリックします．

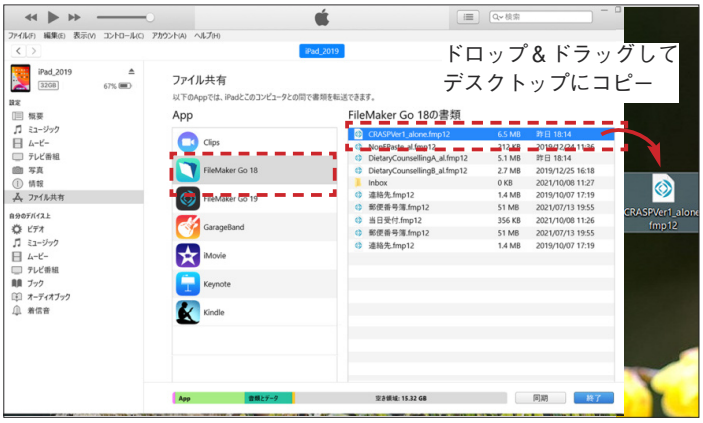
接続している iPad の概要が表示されます．左側のサイドバーで『ファイル共有』をクリックします．





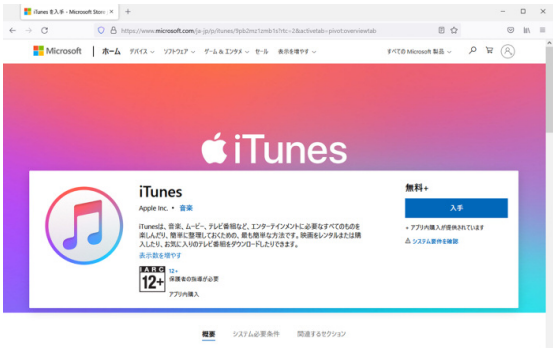
J-3　ファイル共有できる App が表示されますので，“CRASPVer1_alone”を使用していた FileMakerGo を選選択します．
右側の書類一覧にファイルが表示されます．

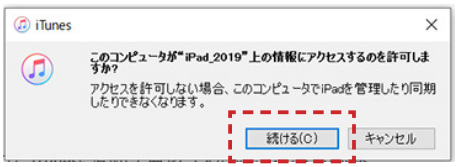
J-4　“CRASPVer1_alone.fmp12”を選択し，ドロップ&ドラッグして，パソコンのデスクトップにコピーします．



iTunes は Microsoft Store から無料でダウンロードできます．ご使用のパソコンにインストールしてください．

注 パソコン（iTunes）に iPad を初めて接続すると，アクセス許可が求められます．［続ける］をクリックします．
iPad での応答を求められますので，iPad で［信頼］をタップします．





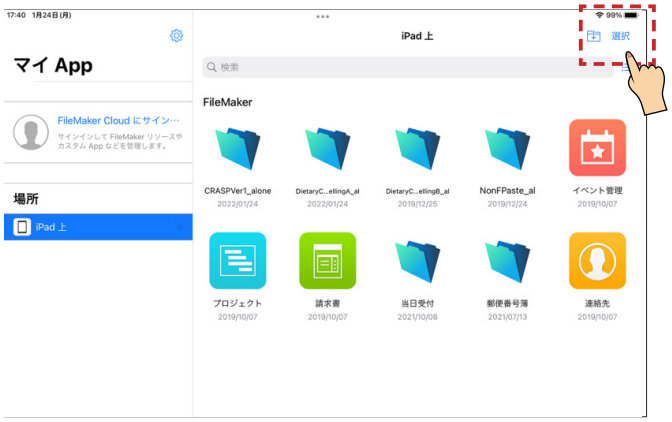
パソコンのダイアログで［続ける］



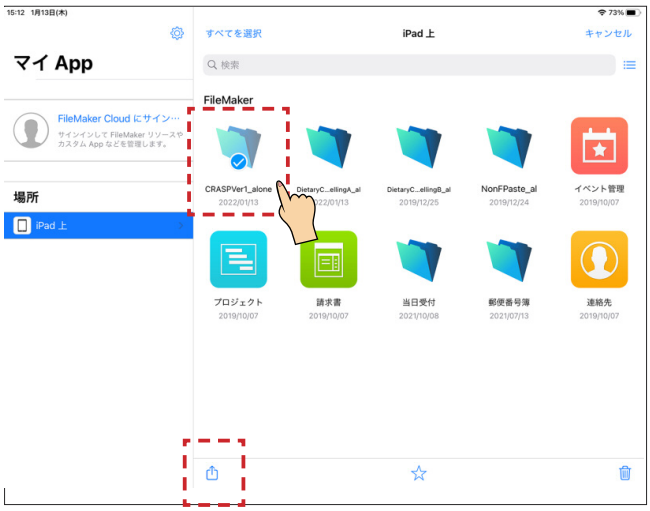
iPad で［信頼］

【Macintosh の場合（AirDrop を使用）】

J-5 iPad で“CRASPVer1_alone”を使用していた FileMakerGo を起動し，マイ APPで右上の［選択］をタップします．



J-6 ファイルの選択が可能になりますので，“CRASPVer1_aloneをタップします．選択したファイルに✔が表示されます．
下段の共有ボタン⬆をタップします．



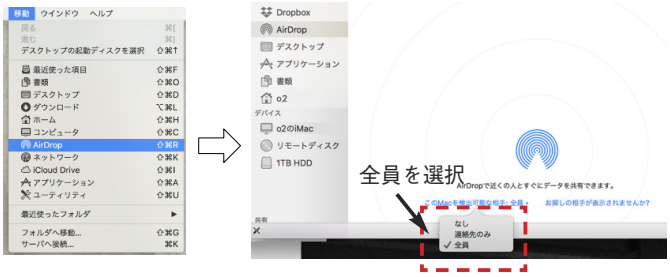
J-7　共有先を選択するダイアログが表示されますので，［AirDrop］ボタンをタップします．



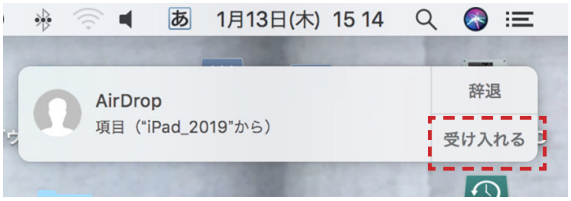
J-8　共有する Mac をタップします．
共有可能なデバイスがあれば，すべて表示されます．



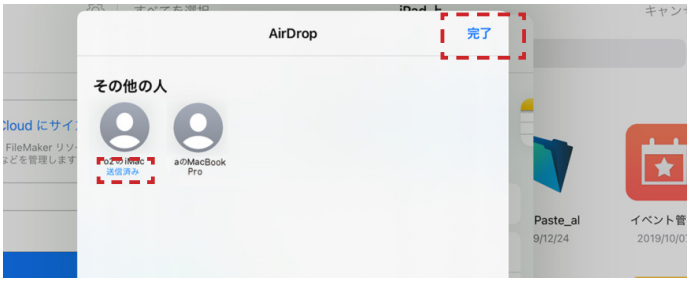
注　何も表示されない場合は，Mac の Finder メニュー「移動」→「AirDrop」を選択し，「この Mac を検出可能な相手」が「全員」になっていることを確認します．「なし」の場合は変更してください．



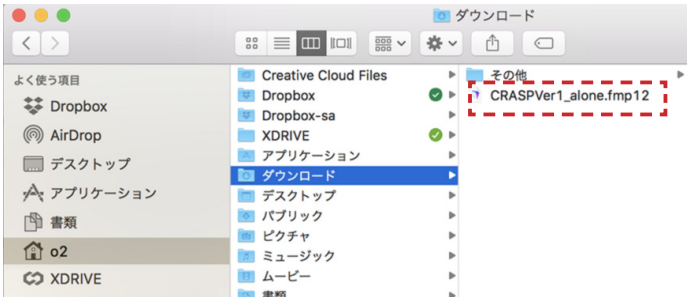
J-9　選択した Mac でリクエストの通知がメッセージ表示されます．「受け入れる」をクリックするとダウンロードに保存されます．



iPad に「送信済み」が表示されましたら，右上［完了］をタップして iPad での作業は終了です．

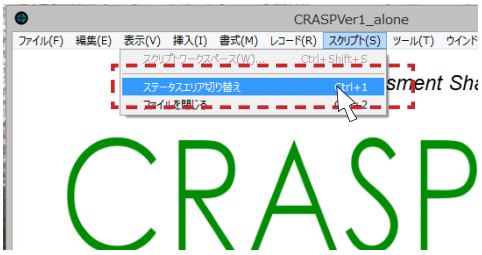


J-10　Mac の「ダウンロード」フォルダに“CRASPVer1_alone.fmp12”コピーされていることを確認します．
デスクトップに移動させます．



J-11　J-4 または J-10 でデスクトップにコピーした“CRASPVer1_alone.fmp12”をダブルクリックして開きます.

注 このとき「DietaryCpunsellingA_al.fmp12」を開くことができません」というエラーが表示されましたら，［OK］→［キャンセル］→［続行］をクリックします．この動作を続けて“CRASPVer1_alone.fmp12”を表示させてください.



J-12　メニューバー「スクリプト」→「ステータスエリアの切り替え」をクリックします．ステータスエリアが表示されますので，レコード数を控え，ファイルを閉じます.



すべてのレレコードを表示し，レコード数を控える

CRASPVer1.fmp12 に CRASPVer1_alone.fmp12 をインストールする

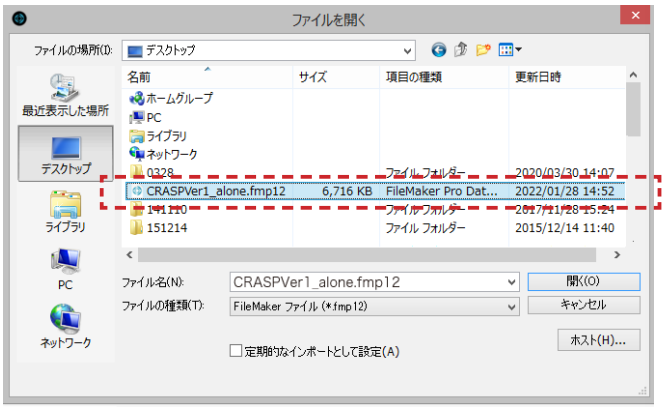
J-13　《ウィステリア 6.0》フォルダ内の“CRASPVer1.fmp12”をダブルクリックして開きます.



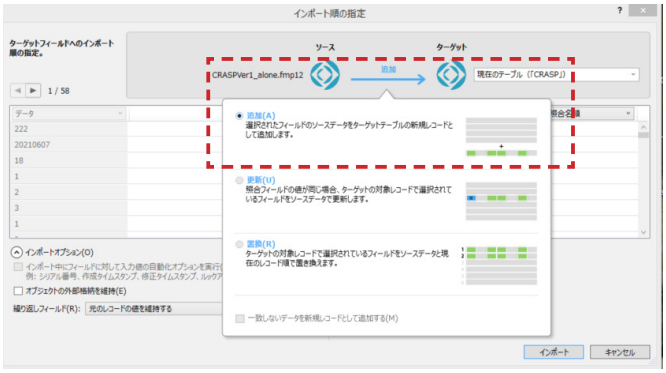
J-14　上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します.



J-15　ファイルを開くダイアログが表示されますので，デスクトップにある“CRASPVer1_alone.fmp12”を選択し，開きます．



J-16　インポート順に設定が表示されます．「追加」をチェックします．



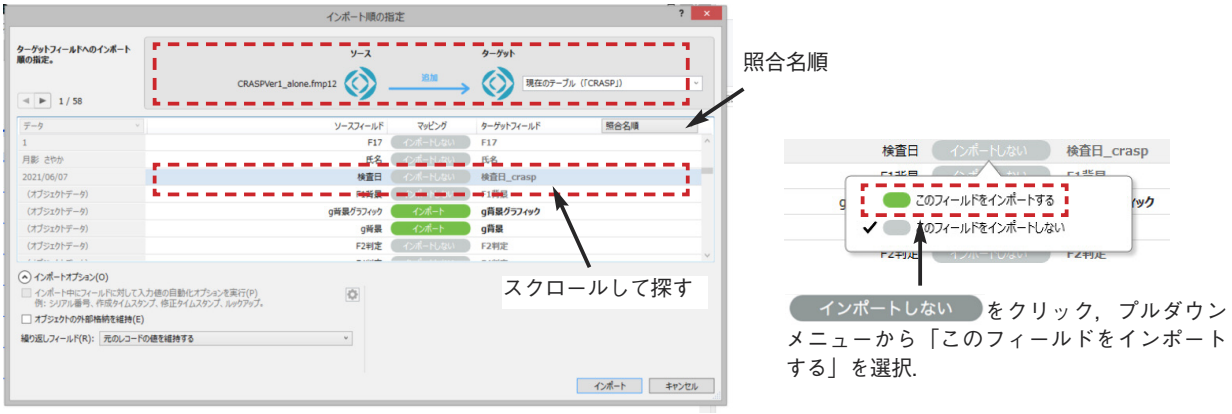
J-17　　ソース（インポート元）：**CRASPVer1_alone.fmp12**

ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（CRASP）**

となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にします．

一欄をスクロールして，検査日 インポートしない 検査日_crasp となっている行を探します．

インポートしない をクリックして，プルダウンメニューから「このフィールドをインポートする」を選択します．表示が インポート に変わります．

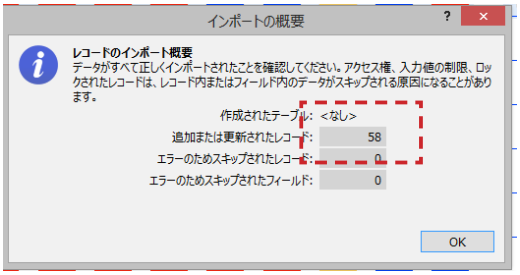


㊟ ここでインポートを選択していないと，日付がウィステリアで表示されません．必ず インポート に変更してください．

㊟ 2022 年 2 月以前にダウンロードされた場合は，この作業が**必要**です．必ず，フィールド名をご確認ください．



J-18　右下［インポート］ボタンをクリックします．
インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．［OK］して CRASPのインポートは終了です．



CRASPVer1_alone.fmp12 とレコード数が同じであることを確認します．

J-19　CRASPVer1_alone.fmp12 を使用している iPad が複数台ある場合は，各 iPad からこの作業をします．
《ウィステリア》の CRASPにデータが統合されて共有して使えるようになります．

J-20　《CRASP》をパソコンで使用（FileMaker Pro を使用）していた場合は，手順 J-13 から作業してください．

食事指導をインストールする

J-21　iPad で《食事指導》を使用して，データを保存していた場合は，《ウィステリア 6.0》に同梱の“DietaryCounsellingB.fmp12”に，“DietaryCounsellingB_al.fmp12”をインポートすることで，《ウィステリア》から連携して使用できます．インポート手順は《CRASP》の場合と同じです．

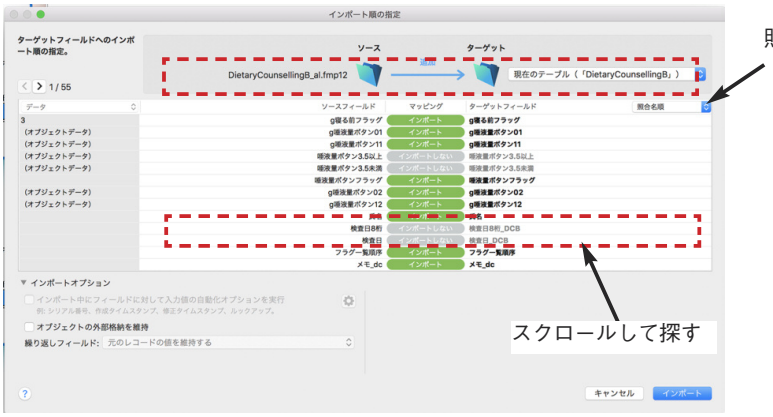
ソース（インポート元）：**DietaryCounsellingB_al.fmp12**

ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（DietaryCounsellingB）**

となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にして［インポート］します．

一欄をスクロールして，検査日 8 桁 インポートしない 検査日 8 桁_DCB となっている行を探します．

インポートしない をクリックして，プルダウンメニューから「このフィールドをインポートする」を選択します．表示が インポート に変わります．右下［インポート］ボタンをクリックします．



照合名順

スクロールして探す



インポートしない をクリック，プルダウンメニューから「このフィールドをインポートする」を選択．

カスタム順位に変わります



注　ここでインポートを選択していないと，日付が食事指導で表示されません．
必ず インポート に変更してください．

注　2022 年 2 月以前にダウンロードされた場合は，この作業が**必要**です．必ず，フィールド名をご確認ください．

J-23　インポートが終了すると「インポートの概要」ダイアログが表示されますので，レコード数を確認します．［OK］して《食事指導》のインポートは終了です．なお，“DietaryCounsellingA_al.fmp12”はインポート不要です．

㊟ データの移行が完了しましたら，iPad 内（またはパソコン）の単独《CRASP》は削除してください．

㊟ データ移行後は，iPad から無線 LAN で接続して，ホストパソコンの“CRASPVer1.fmp12”を開いてください．

K　PerioAssistant6 から teeth.fpm12 に歯式をインポートする

teeth.fmp12 はウィステリア Pro6.0 から追加された歯式を一括で管理するためのファイルです．PerioAssistant で**詳細データを入力**している場合は，歯式（最新残存歯等）をインポートすることが可能です．
データの移行変換用ファイル**“PA コンバート 2teeth.fmp12”**を使用します（USB に同梱）．PerioAssistant6 から teeth へ直接インポートはできませんので，ご注意ください．
インポートの手順は，

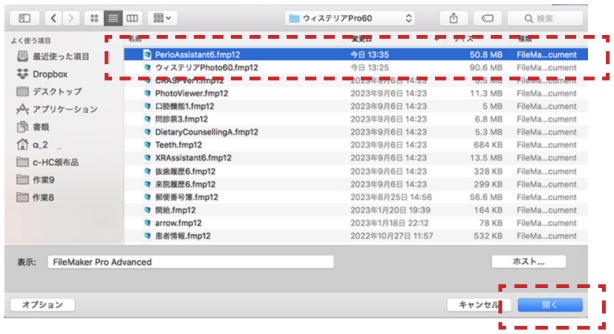
〈k-1〉　PerioAssistant6.fmp12 のデータを“PA コンバート 2teeth.fmp12”にインポート→データを変換する．
〈k-4〉　teeth.fmp12 に〈k-1〉で変換した“PA コンバート 2teeth.fmp12”データをインポートする

となります．

㊟ ここで使う PerioAssistant6.fmp12 は，旧バージョンからデータをインポート済みの PerioAssistant6.fmp12 を使用します．先に旧バージョンからのデータ移行を終わらせてから作業ください．

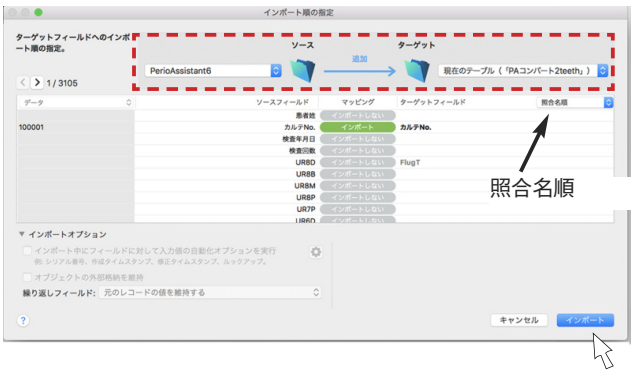
k-1　USB に入っている“PA コンバート 2teeth.fmp12”をパソコンの任意の場所（デスクトップ等）にコピーし，ダブルクリックで開きます．
左上の［インポート］ボタンをクリックします．インポートするファイルを選択するダイアログが表示されますので，《ウィステリアPro60》フォルダ内の“PerioAssistant6.fmp12”を選択して開きます．





k-2　インポート順ダイアログが開きます．「追加」をチェックします．
ソース（インポート元）：**PerioAssistant6**
ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（PA コンバート 2teeth）**
となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にし，［インポート］をクリックします．

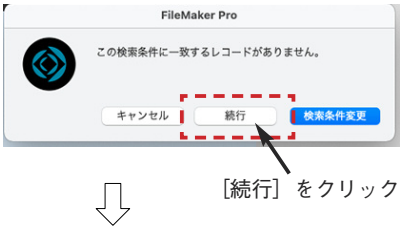
インポートが修了すると「インポートの概要」が表示されますので，［OK］をクリックします．



k-3　［次にここをクリックしてください］ボタンが表示されますので，クリックします．自動でデータが変換されます．



㊟ データ変換時に「この検索条件に一致するレコードがありません」と表示された場合は［続行］をクリックしてください．

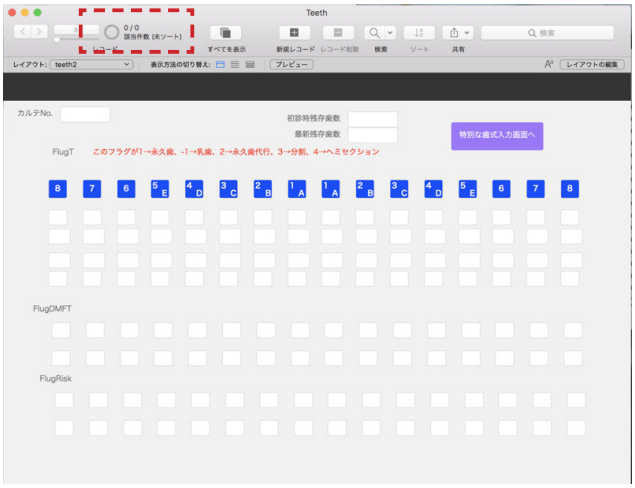


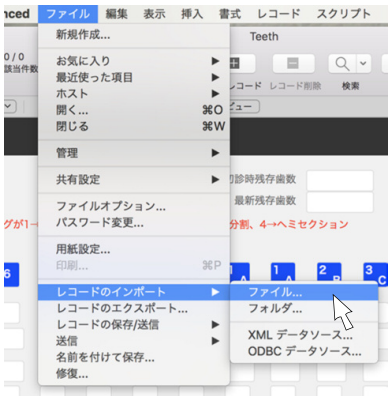
コンバートが終了すると画面が切り変わります．



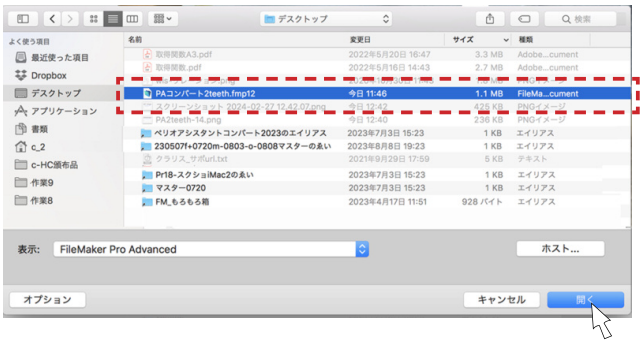
㊟ “PA コンバート 2teeth”はファイルを閉じるとデータが削除されます．開いたまま次の手順に進んでください．

k-4　“teeth.fmp12”を開きます．レコード数「0」を確認します．
上部メニューバー「ファイル」→「レコードのインポート」→「ファイル」を選択します．





k-5　ファイルを開くダイアログが表示されますので，k-3 で準備した“PA コンバート 2teeth.fmp12”を選択して［開く］をクリックします．



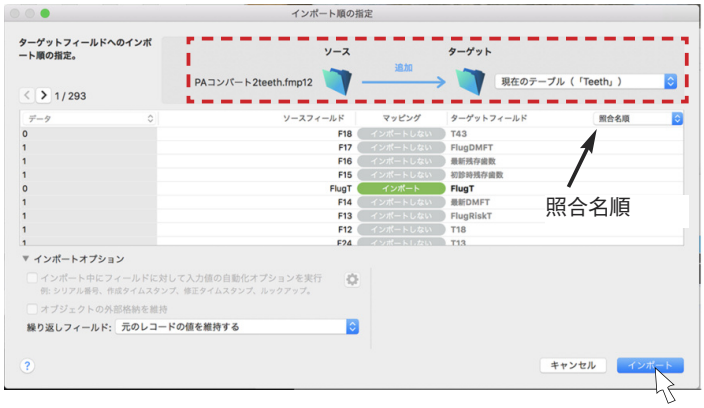
k-6　インポート順ダイアログが開きます．「追加」をチェックします．

ソース（インポート元）：**PA コンバート 2teeth**

ターゲット（インポート先）：**現在のテーブル（teeth）**

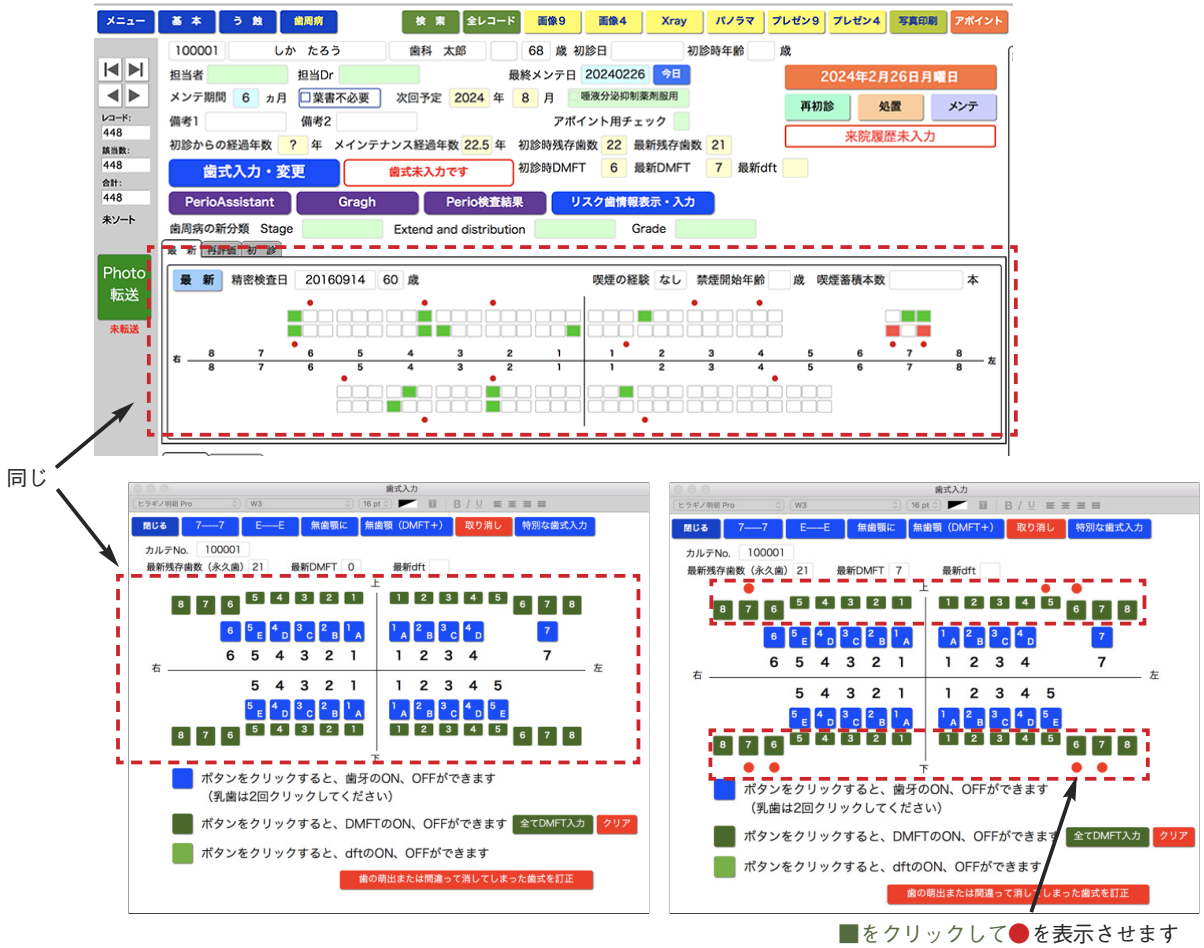
となっていることを確認し，配置順を「照合名順」にし，［インポート］をクリックします．

インポートが修了すると「インポートの概要」が表示されますので，［OK］をクリックします．



k-7　ウィステリアの歯周病画面から確認します，

歯式入力・変更 をクリックしてPerioAssistant の最新状況と同じになっていることを確認します．



注　teeth にデータをインポートしても歯式入力状況は 歯式未入力です のままです．**歯式入力・変更** をクリックして歯式入力を開き，閉じると 歯式入力済み に変わります．

また，DMFT の●が表示されていません．必要箇所に●を表示させてください．

●は最新 DMFT をカウントするのに使用しています．表示されていないと最新 DMFT が正しく表示されなくなります．

歯式の入力の詳細については，ユーザーガイド基本 i_13 ページを参照ください．

データ移行 CheckList（ウィステリア 5.x 用）

データの移行は，新しい**《ウィステリア 6.0》**のファイルに，これまで使用していた**《ウィステリア 5.x》**フォルダ内のファイルデータをインポートします．インポート前に各ファイルのレコード数を確認しましょう．

① バックアップ

《ウィステリア 5.x》のバックアップ（使用パソコン以外のメディアへコピー）　完了✓→ □

② 使用中の《ウィステリア 5.x》フォルダ内の各ファイルのレコード数を確認して記入

ファイル名（旧）	レコード数		ファイル名（新）
ウィステリア Photo50	件	□ 新	ウィステリア Photo60
画像日付 5	件	□ 新	画像日付 6*
処置履歴 5	件	□ 新	処置履歴 6
唾液量 5	件	□ 新	唾液量 6
抜歯履歴 5	件	□ 新	抜歯履歴 6
来院履歴 5	件	□ 新	来院履歴 6
PerioAssistant5	件	□ 新	PerioAssistant6
XRAssistant111	件	□ 新	XRAssistant6

データがない場合は件数に 0 を記入（インポート不要）

③ データインポート後，新しい**《ウィステリア 6.0》**でレコード数を確認　□に✓を記入

④ 《旧ウィステリア》をパソコンから削除

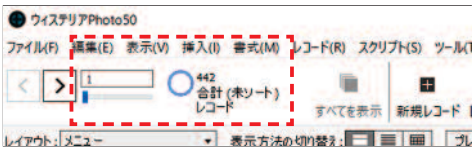
使用するパソコンには新しい《ウィステリア 6.0》のみが入っている　完了✓→ □

＊画像日付 6 は「Photo バージョンアップ変換」で Photo1．Photo2 を一元管理するための変換をすると，レコード数が変わります，**インポート直後のレコード数**を確認ください

全レコード件数の確認方法

メニューバーの「表示」→「ステータスツールバー」を選択して，ステータスツールバーを表示します．

「レコード」→「全レコードを表示」（全レコードが表示されているときはグレーになっています）．表示されたレコード件数を控えます．



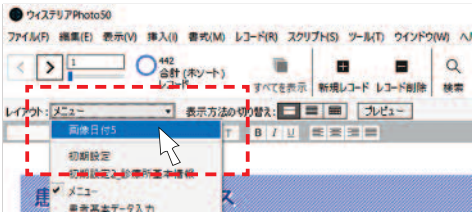
例）ウィステリア

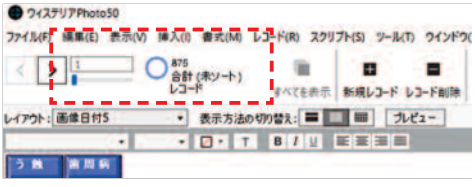
㊟ 画像日付 5 は，ウィステリアファイル内の別テーブルにありますので，そのままではレコード数が表示されません．

「レイアウト：メニュー」をクリックして「画像日付 5」を選択します．

全レコードを表示してレコード数を控えます．

検索後の対象レコード数ではなく，必ず全レコード数をご確認ください．





例）画像日付 5

㊟ その他のファイル（来院履歴 5，抜歯履歴 5，PerioAssistant5 等）も同様にレコード件数を確認してください．ウィステリアPhoto50 以外のファイルもそれぞれ開いて確認します．

データ移行 CheckList（ウィステリア 4.0 用）

データの移行は，新しい**《ウィステリア 6.0》**のファイルに，これまで使用していた**《ウィステリア 4.0》**フォルダ内のファイルデータをインポートします．インポート前に各ファイルのレコード数を確認しましょう．

① バックアップ

《ウィステリア 4.0》のバックアップ（使用パソコン以外のメディアへコピー）　完了✓→☐

② 使用中の《ウィステリア 4.0》フォルダ内の各ファイルのレコード数を確認して記入

ファイル名（旧）	レコード数		ファイル名（新）
ウィステリア Photo40	件	☐新	ウィステリア Photo60
画像日付	件	☐新	画像日付 6*
処置履歴	件	☐新	処置履歴 6
唾液量	件	☐新	唾液量 6
抜歯履歴 2	件	☐新	抜歯履歴 6
来院履歴 2	件	☐新	来院履歴 6
PerioAssistant4	件	☐新	PerioAssistant6

データがない場合は件数に 0 を記入（インポート不要）

③ データインポート後，新しい**《ウィステリア 6.0》**でレコード数を確認　☐に✓を記入

④ 《旧ウィステリア》をパソコンから削除

使用するパソコンには新しい《ウィステリア 6.0》のみが入っている　完了✓→☐

＊画像日付 6 は「Photo バージョンアップ変換」で Photo1．Photo2 を一元管理するための変換をすると，レコード数が変わります，**インポート直後のレコード数**を確認ください

全レコード件数の確認方法

メニューバーの「表示」→「ステータスツールバー」を選択して，ステータスツールバーを表示します．

「レコード」→「全レコードを表示」（全レコードが表示されているときはグレーになっています）．表示されたレコード件数を控えます．

㊟ 画像日付は，ウィステリアファイル内の別テーブルにありますので，そのままではレコード数が表示されません．

「レイアウト：メニュー」をクリックして「画像日付」を選択します．

全レコードを表示してレコード数を控えます．

検索後の対象レコード数ではなく，必ず全レコード数をご確認ください．

㊟ その他のファイル（来院履歴，抜歯履歴，PerioAssistant4 等）も同様にレコード件数を確認してください．



例）ウィステリア





例）画像日付

データ移行 CheckList（ウィステリア 3.x 用）

データの移行は，新しい**《ウィステリア 6.0》**のファイルに，これまで使用していた**《ウィステリア 3.x》**フォルダ内のファイルデータをインポートします．インポート前に各ファイルのレコード数を確認しましょう．

① バックアップ

《ウィステリア 3.x》のバックアップ（使用パソコン以外のメディアへコピー）　完了✓→ □

② 使用中の《ウィステリア 3.x》フォルダ内の各ファイルのレコード数を確認して記入

ファイル名（旧）	レコード数		ファイル名（新）
ウィステリア Photo3x	件	□ 新	ウィステリア Photo60
処置履歴	件	□ 新	処置履歴 6
唾液量	件	□ 新	唾液量 6
抜歯履歴 2	件	□ 新	抜歯履歴 6
来院履歴 2	件	□ 新	来院履歴 6
PerioAssistant2 or PerioAssistant3*	件	□ 新	PerioAssistant6

データがない場合は件数に 0 を記入（インポート不要）

③ データインポート後，新しい**《ウィステリア 6.0》**でレコード数を確認　□に✓を記入

④ 《旧ウィステリア》をパソコンから削除

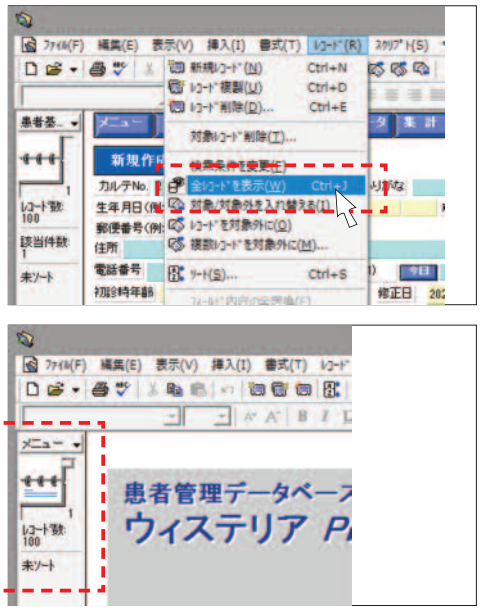
使用するパソコンには新しい《ウィステリア 6.0》のみが入っている　完了✓→ □

＊ウィステリア 3.0／3.1 は PerioAssistant2，ウィステリア 3.0.2／3.1.1 は PerioAssistant3 になります．
PerioAssistant2 は直接 PerioAssistant6 にインポートできません．ご注意ください．

全レコード件数の確認方法

メニューバーの「レコード」→「全レコードを表示」(全レコードが表示されているときはグレーになっています）．表示されたレコード件数を控えます．

㊟その他のファイル（来院履歴，抜歯履歴，PerioAssistant3 等）も同様にレコード件数を確認してください．



データ移行 CheckList（ウィステリア 2.x 以下用）

データの移行は，新しい**《ウィステリア 6.0》**のファイルに，これまで使用していた**“ウィステリア”**ファイルデータをインポートします．インポート前にレコード数を確認しましょう．

① バックアップ

《ウィステリア 2.x 以下》のバックアップ（使用パソコン以外のメディアへコピー）　完了✓→□

② 使用中の《ウィステリア x.x》ファイルのレコード数を確認して記入

ファイル名（旧）	レコード数		ファイル名（新）
WistariaPhoto-w2.2（Win） WistariaPhoto-m2.2（Mac）	件	□新	ウィステリア Photo60

ファイル名（旧）	レコード数		ファイル名（新）
Wistaria2.0／1.1	件	□新	ウィステリア Photo60

③ データインポート後，新しい**《ウィステリア 6.0》**でレコード数を確認　□に✓を記入

④ 《旧ウィステリア》をパソコンから削除

使用するパソコンには新しい《ウィステリア 6.0》のみが入っている　完了✓→□

全レコード件数の確認方法

メニューバーの「レコード」→「全レコードを表示」(全レコードが表示されているときはグレーになっています）．表示されたレコード件数を控えます．

